

### 3.9 東京都町田市

#### 3.9.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	東京都町田市
2. 実践テーマ	課題解決に向けた主体的・協働的な学び
3. 教科等	国語科・社会科・総合的な学習の時間
4. 学年	小学校4年～6年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

21世紀型能力の中核となる「思考力」の中でも、「特に他人と考えを合わせ、新しく答えを創造できる力を育成すること」を目的として、総合的な学習の時間を中心とした年間指導計画に課題解決の過程に即した ICT 活用を配列した。

### 町田市モデルカリキュラムの読み方 『モデルカリキュラム町田市』(P. 1より)

**国語**

**総合的な学習の時間**

**社会**

**ICT活用**

総合的な学習の時間を中心に、国語や社会の授業との関係をつなげてあります。

▲は「何のために使用しているか」を示しています。

●は「そのために使用した機器」を記述しています。

ICT活用の内容については、効果のあった一例を載せています。また、それは月別の内容に沿ったものとなっています。月別に縦にご覧ください。

### 町田市モデルカリキュラムのコンセプト① 『モデルカリキュラム町田市』(P. 1より)

7月

9月

10月

11月

12月

次への一歩  
～活動報告書～

考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう。

すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう。

説明のしかたの工夫を見つけ、話し合おう。  
グラフや表を用いて書こう。

百年後のふるさとを守る。分かりやすく伝える。

**国語で学んだことを生かす。**

町田の良い所CM作り【総合的な学習の時間(3)

- 本町田(町田)の良さを調べる
- 都心と比較する(視点を絞る)
- 共通点や相違点をまとめる
- まとめたことを元に、町田がさらに良い町になるための提案を考える。

「研究発表」“まとめる”ことを中心に、町田がさらに良い町になるための提案を考える。

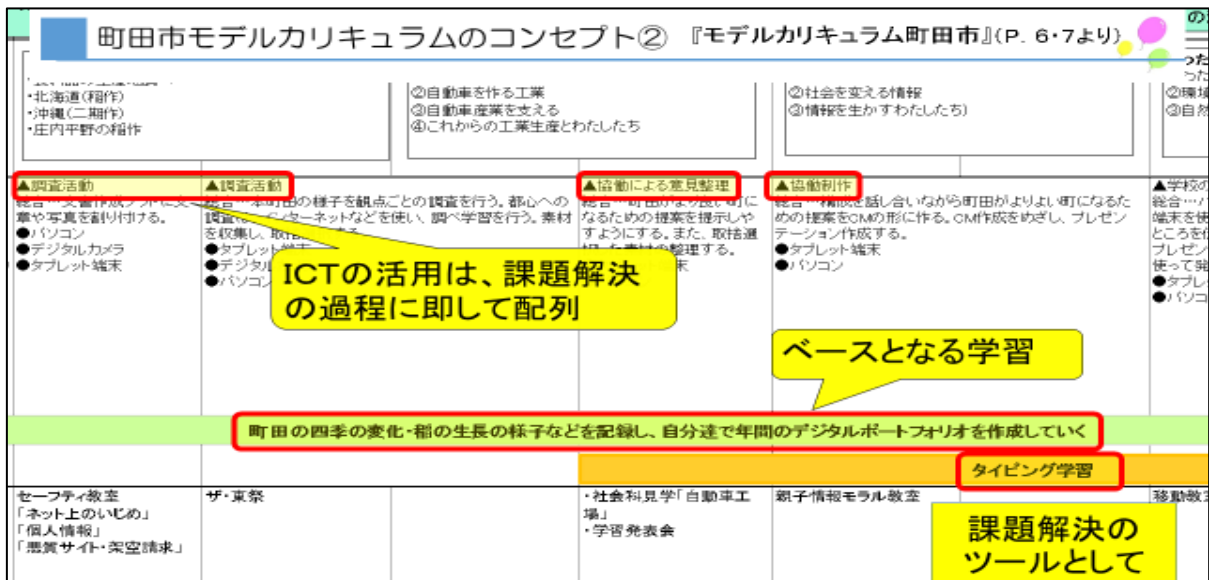
町田の良さを伝えるCM作りの準備

○稲の観察

○収穫 ○脱穀 ○おにぎり作り

○分別 ○精米 ○糶摺り

**カリキュラムマネジメント**



## 6. 参考

本事業に 取り組む 背景	ICT環境の 整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		タブレットPC	10	4人に1台	平成27年 10月
		デスクトップ端末	40	1人に1台	平成20年 4月
		大型ディスプレイ (32インチ)	各教室1台		平成20年 4月
		大型ディスプレイ (50インチ)	4		平成20年 4月
		電子黒板	1		平成20年 4月
		プロジェクター	4		平成17年
		デジタルカメラ	10		
		高速無線LAN		校内100% 整備	平成20年 4月
これまで ICT活用に関 して取り組 んできた 内容	「タブレットPC重点設置校」の指定 平成24年から開始して現在、実証校の2校を含む小学校5校、 中学校4校を指定して、タブレットPCを5台程度配備してい る。実証校の本町田東小学校及び町田第六小学校には平成26 年度からタブレットPCを追加で5台配備して日頃の授業で活 用するほかに、小学校教育研究会や校内研究会の授業研究等 を行っている。				

### 3.9.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

「総合的な学習の時間」を中心に、各教科で取り組んだ内容を関連づけた年間指導計画となっており、ICT 活用は課題解決のプロセスに位置付けられている。

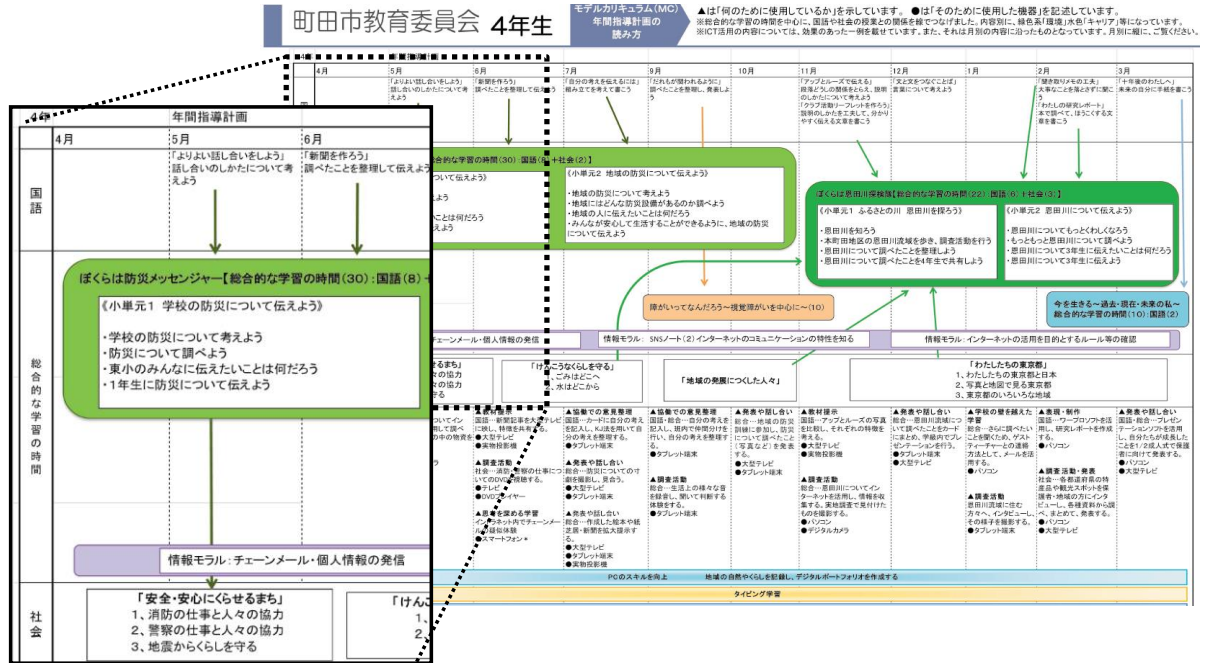


図 3-11 東京都町田市 小学 4 年生 モデルカリキュラム (MC) 年間指導計画より抜粋

## 3.10 長野県大町市

### 3.10.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	長野県大町市
2. 実践テーマ	⑦課題解決に向けた主体的・協働的な学び
3. 教科等	算数・数学、理科
4. 学年	小学校3年～中学校3年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

##### (1) 小中連携または一貫教育に利用できるモデルカリキュラムの作成

①算数・数学・・・「図形」「関数」の2領域で、小学校3年から中学3年までの単元のつながりがわかる系統表を作成した。

②理科・・・「粒子」「地球」の2領域で、小学校3年から中学3年までの単元のつながりがわかる系統表を作成した。

③系統表における単元において ICT が有効にはたらく授業場面が一覧できるようになっている。

##### (2) 協働的な学習を活性化するためにどのように ICT を利用したか。

①学習課題をとらえることができるようにするためのツールとして。

本時の課題について文章や図を用いて電子黒板で大きく拡大して表示したり、動画を使って視覚的に問いの意味をとらえさせることで、児童生徒が本時は何に取り組んだらよいのかを理解しやすくなる。また教師は本時の課題をタブレット PC を用いて瞬時に個々の児童生徒に配布することができる。

②記録しておいたものを活用することができるようにするためのツールとして。

前の時間に学習した内容や考え、他の班が行った実験の様子、終了してしまった実験結果、野外活動での記録など ICT を用いると何度でも再現できて確認できる。こうしてあやふやだった事象や記憶が鮮明になることで個々の思考が進む。

③多様な考えを生み出すためのツールとして。

タブレット PC を用いると安心して何度も消したり書いたりできる。そのために例えばモデルを考えて書く、グラフを書く、補助線を引くなど、ノートでは面倒だった作業に児童生徒は意欲的に取り組むようになる。その結果、ひとりひとりが自信をもって考えを表明できるようになり多様な考えを引き出すことができる。

④考えを共有し、意見交換することができるようにするためのツールとして。

ノートに書かれた考えをタブレット PC で撮影して送信する。考えをタブレット PC に直接書き込んで送信する。また進捗状況を送信する。こうして一斉に表示された場面を見ることで、他の人の考えや進捗状況をすぐを知ることができるようになる。そのために他の友達との同意点や相違点がわかり意見が出しやすくなる。またタブレット PC を用いると説明しやすいので隣同士や班の中での話し合いが活発になる。

(3) 学年ごとの有効な ICT 利用

- ① 小 3～小 4・・・学習課題に関する動画や図表、記録しておいた実験などを見ることで関心意欲が高まり、すすんで授業に取り組む。
- ② 小 5～中 1・・・タブレット PC をノート代わりに使うことで、消したり書いたり容易になり、自分の考えを自由に表現しやすくなる。
- ③ 中 2～中 3・・・タブレット PC を使って個々の考えを説明することで、意見交換が活発になる。

6. 参考

本事業に取り組む背景	ICT 環境の整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		電子黒板	各校 3～14 台	各学校による	平成 21 年～
		タブレット PC	各校 20～35 台	1 クラス 1 人 1 台	平成 27 年～
		デジタルハイビジョンカメラ	各校 2～6 台	1 クラスグループ毎	平成 26 年～
	LAN 環境	各校	全教室	平成 21 年～	
	これまで ICT 活用に関して取り組んできた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進校の見学</li> <li>・講演会の開催</li> <li>・タブレット PC 操作講習会の実施</li> <li>・ICT 活用推進委員会の開催</li> <li>・理科部会、算数・数学部会の開催</li> <li>・実証授業の実施</li> </ul>			

3.10.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

9年間にわたる学習内容系統表に ICT 活用の場面が記載されているとともに、発達段階に応じて ICT 利用の目的が設定されている。

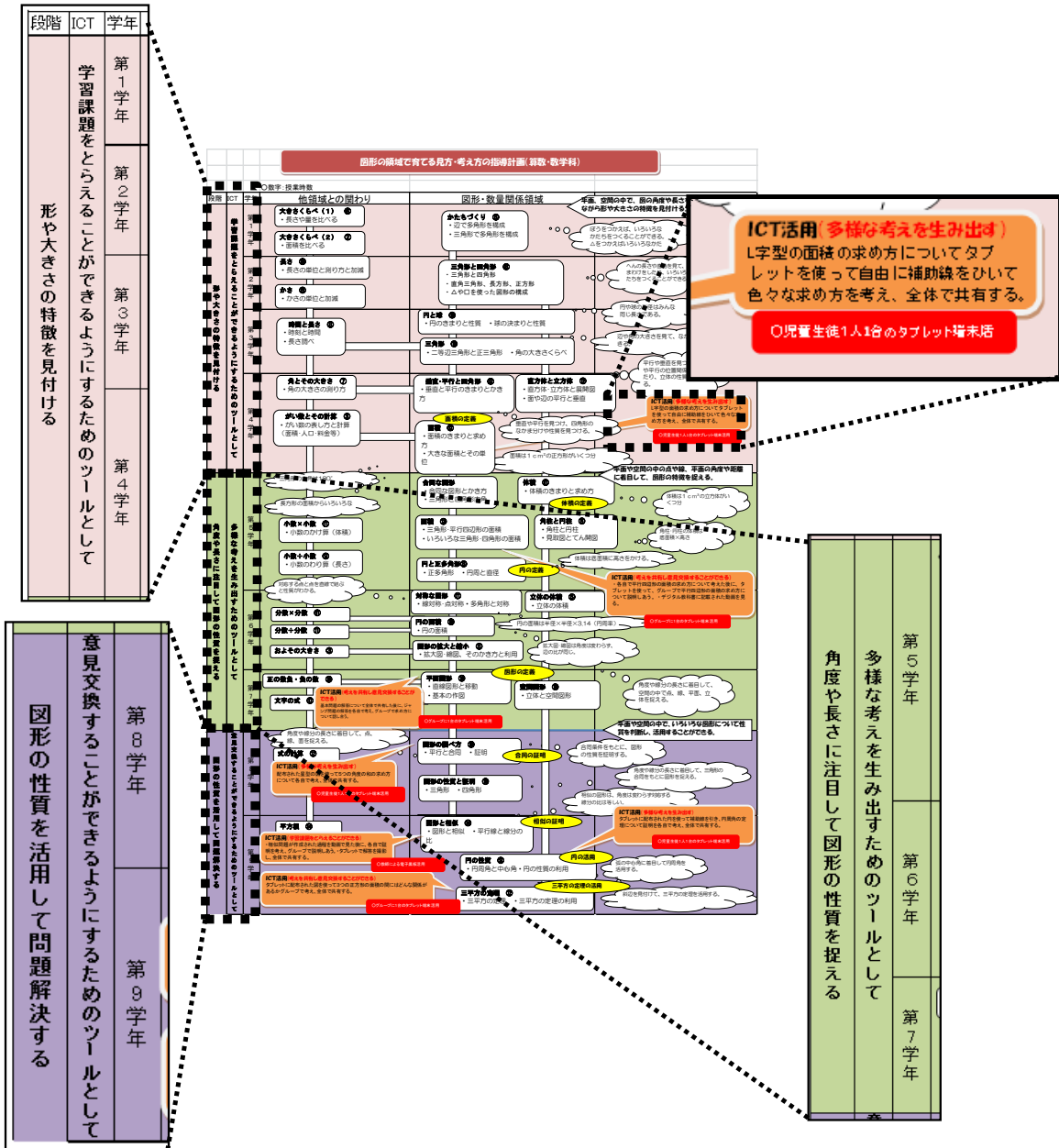


図 3-12 長野県大町市 算数・数学学習内容系統表（図形領域）

### 3.11 静岡県伊東市

#### 3.11.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	静岡県伊東市
2. 実践テーマ	⑦課題解決に向けた主体的・協働的な学び
3. 教科等	国語 社会 算数 理科 生活 音楽 図工 体育
4. 学年	小学校1年 ～ 6年 特別支援学級

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

「協調的問題解決における思考力・判断力・表現力の育成」と「ジグソー学習法の各段階における ICT の効果的な活用」

本カリキュラムは、ジグソー学習法を中心とした協調的問題解決の授業（協調的に問題解決をする場面があればジグソー学習法ではない授業も含まれている）において、効率良く思考を共有したり、理解を深めたりすることを目的として ICT を活用している。エキスパート活動（情報を収集したり資料を読み取ったりする場面）、ジグソー活動（グループで協調的に課題を解決する場面）、クロストーク（課題に対する解を全体で確認したり考えを練り直したりする場面）の 3 つの各段階における ICT 活用を示している。例えば、エキスパート活動では、必要な情報や資料をタブレット PC で検索したり、ホワイトボードにまとめたことを撮影したりする場面で用いている。ジグソー活動では、それぞれが持ち寄った情報や写真を課題解決のためにタブレット PC で提示して説明する際に主に用いている。クロストークでは、大型モニターにそれぞれのグループがまとめたボードの写真を提示したり、その写真をサーバーに保存し、各端末から閲覧したりする場面で用いている。ジグソー学習法ではない授業でも、それら 3 つの段階に準じた活動が行われた授業は取り上げている。

また、低学年ではタブレット PC のグループでの閲覧や大型モニターでの確認という使い方から、高学年になるにつれてグループ 1 台及び 1 人 1 台のタブレット PC 間の情報の共有を目的とした使い方をしている傾向にある。学年が上がるにつれて、見て確認することから、学習したことの記録、さらには記録の共有というように、より能動的に情報の共有をするためのツールとなっている。特別支援学級ではアプリケーションを使った成果物の作成というように、書いたり作ったりする活動を支援するツールとしての提案もされている。

#### 6. 参考

本事業に取り 組む背景	ICT 環境の 整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		教育用 PC	1 校当 たり 40 台	パソコン教室に設 置（東小 40 台、旭 小 40 台）	平成 25 年 10 月
		ユニット型 電子黒板	1 校当 たり 1 台	（東小 1 台 旭小 1 台）	平成 25 年 10 月
		実物投影機	1 校当 たり 1 台	（東小 1 台 旭小 1 台）	平成 25 年 10 月

	タブレット PC	63 台	(東小 41 台 旭小 20 台 静岡大学益川准教授より提供、市より各校 1 台ずつ)	平成 26 年 4 月 平成 27 年 4 月 平成 28 年 4 月
	大型モニター	8 台	東小各学級 1 台 旭小各階 1 台 (パナソニック教育財団助成金より)	平成 26 年 9 月 平成 28 年 3 月 平成 28 年 8 月
	無線 LAN アクセスポイント	5 台	東小、旭小各階に 1 台	平成 26 年 11 月 平成 27 年 12 月 平成 28 年 4 月 平成 28 年 8 月
	タブレット PC 用サーバー機器	2 台	東小 1 台 旭小 1 台 (アクセスポイントと兼用)	平成 27 年 9 月 平成 28 年 8 月
	虫眼鏡型ライブカメラ		東小のみ (パナソニック教育財団助成金より)	平成 27 年 9 月
これまで ICT 活用に関して取り組んできた内容	<p>伊東市立東小学校は平成 24 年度から静岡大学大学院益川准教授を招聘し、思考力・判断力・表現力の育成を目指してジグソー学習法を導入し、6 学年算数「並べ方と組み合わせ方」の単元は、毎年改善しながら実践、検証を行っている。平成 25 年度の市の指定研究発表会では、確かな学力育成を目指した実践研究においてジグソー学習法の有効性を提案した。平成 26 年度、27 年度はパナソニック教育財団の助成を受け、ジグソー学習法における思考の共有化を図ることを目的として、大型モニター、タブレット PC を中心とした ICT 機器を導入し、実践を行った。平成 28 年度は、他教科、他学年の実践でもジグソー学習法や ICT 導入の有効性を検証するために、昨年度までの実践を改善し授業研究に取り組んでいる。</p> <p>伊東市立旭小学校は、静岡県が作成した人間関係づくりプログラムの実践研究を継続して行い、不登校児童数や問題行動件数が減少するという成果を得ることができた。その成果は、平成 24 年度、25 年度の市の指定研究発表、平成 26 年度の自主発表において発表した。平成 27 年度は、形成されつつある友好的人間関係を授業に生かしながら、主体的に活動する意欲や、自分の思いを伝える表現力の育成を目指し、東小のジグソー学習法を参考に、ICT を活用した実践に取り組んだ。平成 28 年度は、タブレット PC の増加、大型モニターの設置、無線 LAN 環境の整備等、環境面での充実が図られ、高学年を中心に活用の幅を増やしている。</p>			



### 3.11.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

ジグソー学習法におけるエキスパート活動、ジグソー活動、クロストークの各段階における ICT 活用の内容が記載されている。

ジグソー（ICT）実践一覧 5年

学年	指導時期 学期 月	教科	単元	単元目標	学習活動の概要	ICT活用			
						ねらい	主な活用場面 方法	利用するICT環境	
5	2学期 9月	家庭科	はじめようソーイング	玉結び・玉止めなど手縫いの基礎的な技能を習得し、布を使って生活に役立つ小物を作る。	既製の履のボタンが取れた時に、そのボタンを付け履製の履を大切に使う。生活に役立つ小物にボタンを付ける。	ボタン・履のやり方が分からない場合に、動画教材を参考にしながら学習する。	課題や情報を全体で共有する場面	教科書指導書付属の映像を再生しながら説明。動画教材を再生しながら説明。動画教材を再生しながら説明。	大型モニター PC 教科書指導書付属DVD
5	1学期 9月	算数	倍数と約数	約数や倍数の具体的な場面における問題を思いがけずながら解決し、約数・倍数、公約数・公倍数、最大公約数・最小公倍数の考え方を見出す。	ジグソー学習法で実施。3つの数についての最小公倍数（バスの出発時刻）や最大公約数（割り切れる人数）を求める具体的な場面を課題として設定。エキスパート班では、1つの数について約数や約数を求める。ジグソー班では、見つけた約数や約数を比較し、最小公倍数や最大公約数を算出する。	他の班がまとめたボードを参照し、再度自分たちの考えを練り直す。	クロストーク ジグソー（各班の情報を共有し、課題解決する場面）	ジグソー班でまとめたボードを撮影し、サーバーへ保存。クロストークで、解答や意見が異なる物について、いくつかの班のボードを提示した後、再度ジグソー班で考えを練り直す際に、各班の保存したデータを参照しながら、自分たちのボードを加筆修正していく。	グループ1台タブレット ファイル共有用サーバー 大型モニター
5	2学期 10月	理科	台風と天気の変化	台風による天気の変化に関する知識を、資料を活用して、台風の経路や天気の変化について調べ、台風は西から東への天気の変化の仕方とは異なる特徴の動きをすることを捉える。	台風がどのような動きをしているかを捉えるために、今年発生した台風の経路が分かる情報を、ウェブサイトを検索する。検索した画像を見ながら、白地図に動きを線で表していくことにより、台風が、おおよそ、南の海上で発生し、西に移動してから日本列島に近づいてくることを捉えている。	検索した画像を線で表すために後で共有するため。	情報を収集する場面	検索した画像を線で表すために後で共有するため。	グループ1台タブレット ファイル共有用サーバー 大型モニター
5	2学期 11月	社会	情報化した社会	国が国の情報産業や情報化した社会の様子について、放送、新聞などの産業と国民生活とがどのように関係しているかを調べ、情報化の進展は国民の生活にどのような影響を及ぼしているかを理解の観点から捉える。	ジグソー学習法で実施。エキスパート班では、テレビ、インターネットの、三種のメディアのそれぞれの特徴を捉え、ジグソー班では、それぞれの特徴を捉え、それを相手に伝えること、また、相手から伝えたい情報を、どのメディアを活用して情報を収集するかが適切なものとする。	メディアの特徴を捉え、視覚的・体験的に伝えること、また、相手に意見を伝える際のツールとすること。	エキスパート（情報を収集する場面） ジグソー（収集した情報を伝える場面）	エキスパート班でまとめたボードを撮影し、サーバーへ保存。クロストークで、解答や意見が異なる物について、いくつかの班のボードを提示した後、再度ジグソー班で考えを練り直す際に、各班の保存したデータを参照しながら、自分たちのボードを加筆修正していく。	グループ1台タブレット
5	2学期 11月	算数	図形の面積	必要な部分の長さを測り、既習の長方形や正方形などの面積の求め方に着目させ、計算によって求めたり、新しい公式をつくり出し、それを用いて求めたりすることができるようになる。	ジグソー学習法で実施。エキスパート班では、長方形や平行四辺形の面積の求め方を捉え、それを相手に伝えること、また、相手に意見を伝える際のツールとすること。	エキスパート（情報を収集する場面） ジグソー（収集した情報を伝える場面）	エキスパート班でまとめたボードを撮影し、サーバーへ保存。クロストークで、解答や意見が異なる物について、いくつかの班のボードを提示した後、再度ジグソー班で考えを練り直す際に、各班の保存したデータを参照しながら、自分たちのボードを加筆修正していく。	グループ1台タブレット ファイル共有用サーバー 大型モニター	

図 3-13 静岡県伊東市 小学5年 ジグソー（ICT）実践一覧 より抜粋

### 3.12 愛知県岡崎市

#### 3.12.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

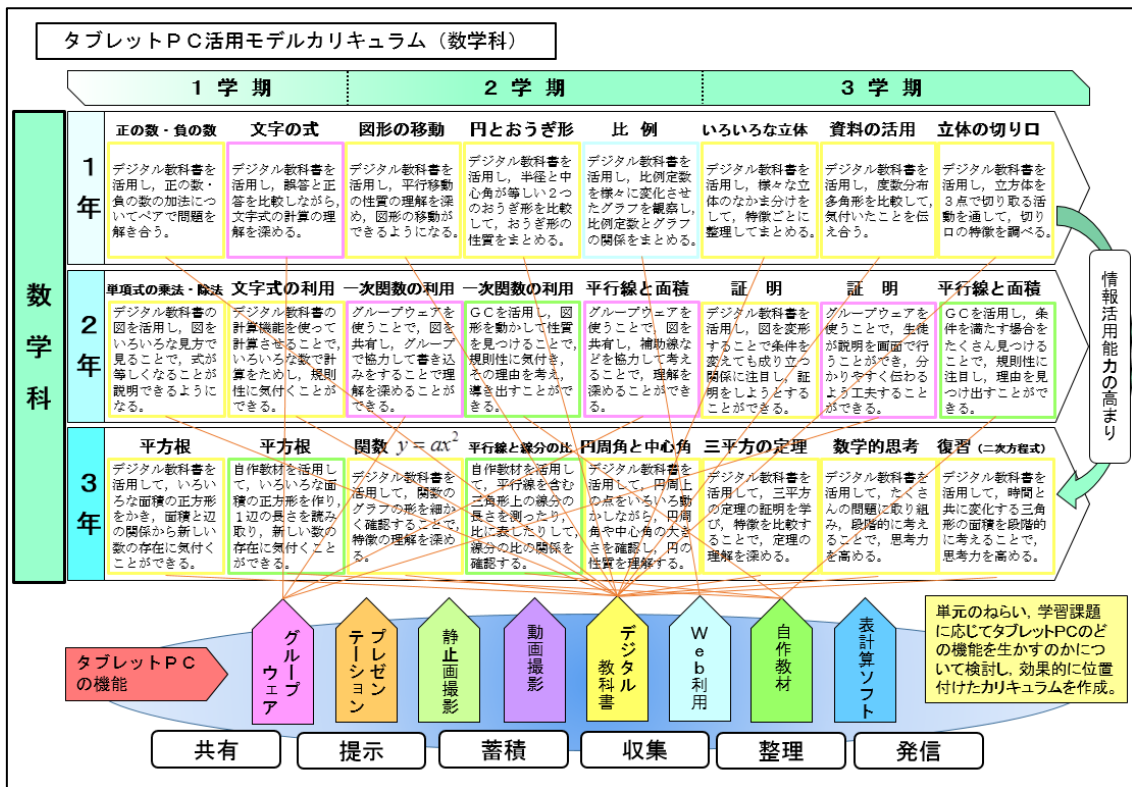
1. 自治体名	愛知県岡崎市
2. 実践テーマ	①外国語活動・英語教育、②理数教育、 ⑦課題解決に向けた主体的・協働的な学び、⑧情報活用能力の育成
3. 教科等	数学科・理科・英語科
4. 学年	中学校1年～3年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

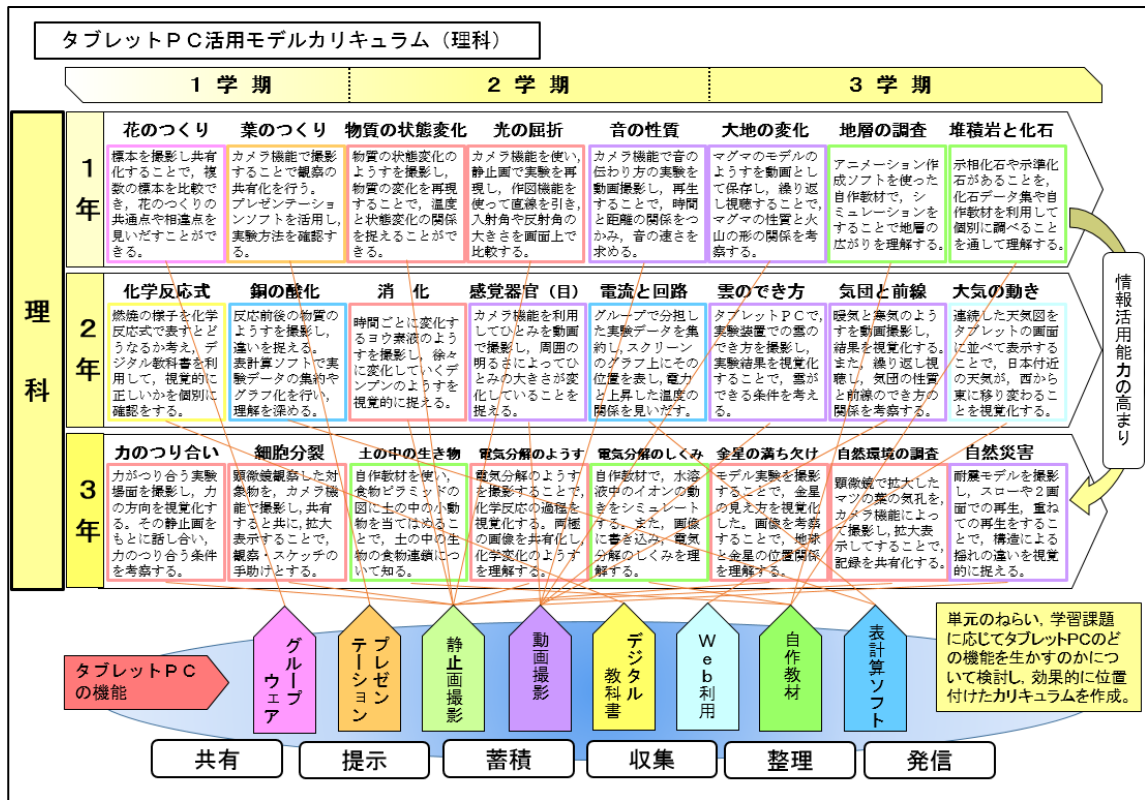
数学科、理科、英語科の3教科のモデル授業案（今年度末までに72案が完成）について、これまでの授業実践と検証の結果を踏まえ改善を図りながら蓄積を進めるとともに、効果的にタブレットPCの活用が図られるように配列することでモデルカリキュラムへの位置付けを明確にする。

単元の特性や学習内容によって、タブレットPCのどの機能をどのように使えば効果的であるのかを検討し、例示することによって汎用性のあるモデルカリキュラムとなる。このモデルカリキュラムを基に、各学校において、タブレットPCの機能特性に応じた授業づくりを自立的に行えるようになる力を高めていく。

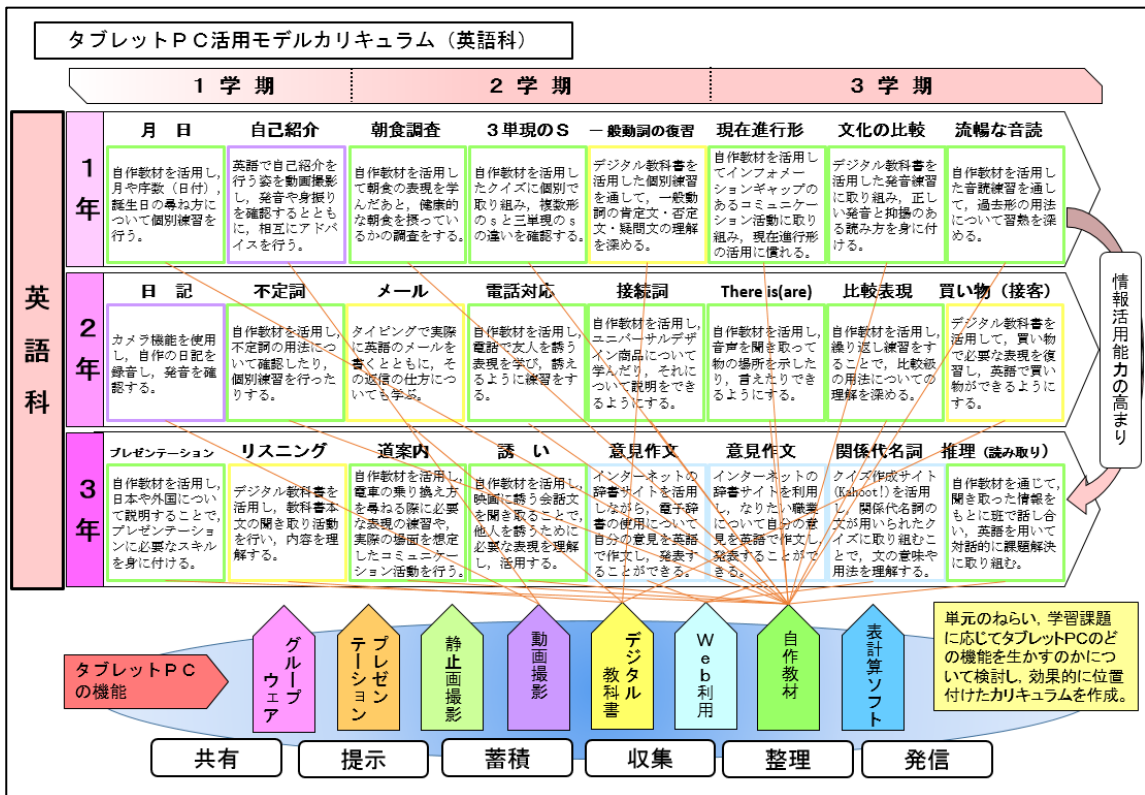
【タブレットPC活用モデルカリキュラム（数学科）】



【タブレットPC活用モデルカリキュラム（理科）】



【タブレットPC活用モデルカリキュラム（英語科）】



## 6. 参考

本事業に 取り組む 背景	ICT環境の 整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		タブレットPC	各学校 20台～60台	学校内で共 有	平成26年 10月
		無線アクセスポ イント	各学校 20台～60台	学校内で共 有	平成26年 10月
		教室用PC	1	全教室設置	平成27年 9月
		大型モニター	1	全教室設置	平成21年 9月
これまで ICT活用 に関して取 組んできた 内容	<p>○岡崎市立葵中学校（タブレットPC活用パイロット校） 平成26年10月14日（火） 学び合い・磨き合いを軸にした思考力・判断力・表現力の育成 平成27年10月20日（火） 主体的・協働的な学習を軸にした、思考力・判断力・表現力の 育成 平成28年11月9日（水） 協働的に学ぶ授業の創造～ICTの有効活用を通して～</p> <p>○市内全20中学校においては、毎学期、全学年、英語、理科、 数学の3教科において、授業モデル案を基にしてタブレットPC を活用した実践に取り組み、授業後にアンケートを集約した。 特に、パイロット校である葵中学校、新香山中学校については、 大学教授等の助言や教育委員会特別委員会である情報教育推進 委員会の支援を受け、授業モデル案の検証に取り組んだ。</p>				

### 3.12.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

モデル授業案を基に、単元の特性や学習内容に対して効果的なタブレット PC の機能が例示されている。

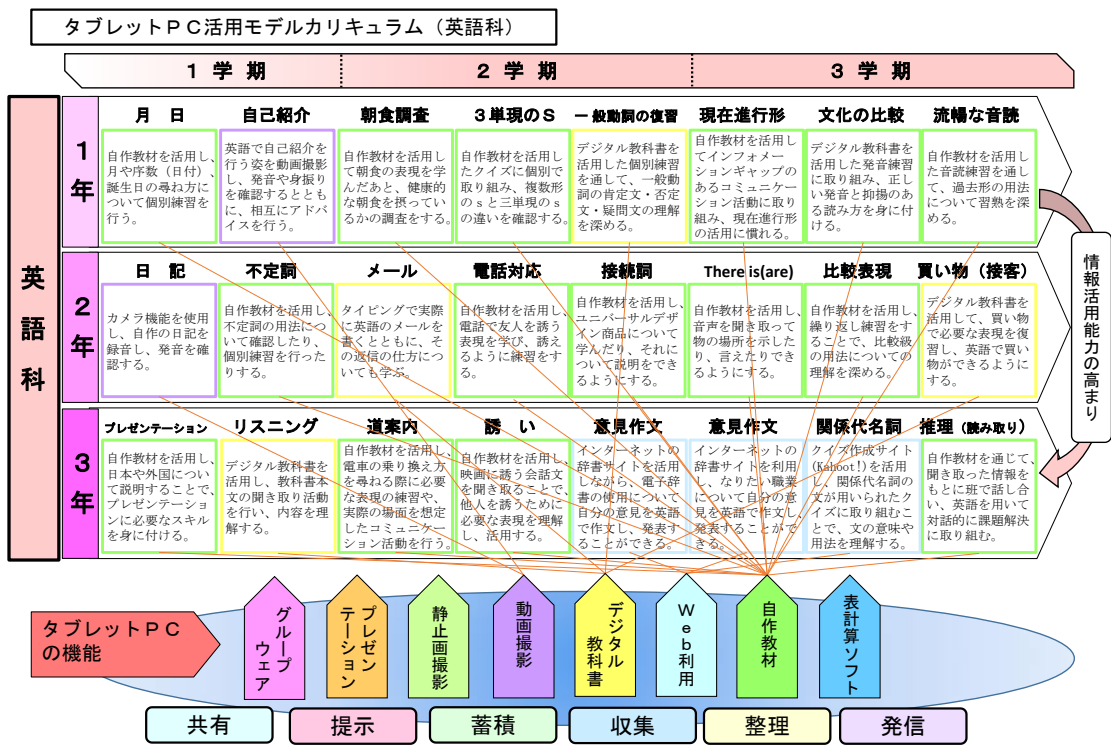


図 3-14 愛知県岡崎市 英語科 タブレット PC 活用モデルカリキュラム

### 3.13 愛知県安城市

#### 3.13.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	愛知県安城市
2. 実践テーマ	⑦課題解決に向けた主体的・協働的な学び
3. 教科等	総合的な学習の時間・国語
4. 学年	小学校3年～5年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

本市では、児童が意見を交流しながら学びを深める、「学び合い」の授業づくりを目指し、課題解決に向けた主体的・協働的な学習に取り組んでいる。主に、調べたことやまとめたことを他の児童に発表する場面（グループや全体）で ICT 活用をするために、下記の様に身に付けたい力を設定した。

	1 年生	2 年生	3 年生
身に付けたい力	投影された画像や資料に興味を示し、自分の考えをもつことができる。	調べたことや撮影した画像を提示し、自分の考えを伝えることができる。	調べたことや自分の考えをまとめ、わかりやすく伝えることができる。
主に活用する機能	教師用機画面の投影	カメラ機能 学習者機画面の投影 (発表)	発表ノート マーキング

	4 年生	5 年生	6 年生
	グループごとに資料や自分たちの考えをまとめ、発表することができる。	グループごとの発表を聞き合い、自分の考えをもう一度考えたり、見直したりすることができる。	グループごとの発表を聞き合い、自分の考えと比べたり、新しい見方や考え方を広げたりすることができる。
	教材配布 画面の比較表示 グループフォルダ	学習者機画面一覧表示	学習者機画面一覧表示

身に付けたい力の設定は、生活科と総合的な学習の時間の目標に沿って設定し、主に活用する機能の設定は、段階的にタブレット PC や学習支援ソフトの操作習得ができるようになっている。（操作習得状況により変更可能）これらの考えを基に「安城市 ICT 年間活用カリキュラム」を作成し、本モデルカリキュラム3年生～5年生の総合的な学習の時間について作成した。各校の地域の特徴に合わせて、題材・内容を変更することができるようになっている。また、国語科の文の推敲や発表に関する単元を横断的に取り入れている。

6. 参考

本事業に取り組む背景	ICT環境の整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		タブレットPC	各校41台 (全小中学校29校)	児童生徒用40台 教師用1台 学習支援ソフト	平成27年9月 平成28年9月
		画像転送機能付き無線アクセスポイント	各校6台	移動式	平成27年9月 平成28年9月
		デスクトップコンピュータ	各校41台(全小中学校29校)	コンピュータ室	
		電子黒板ユニット	各校1台	取り付け式	平成27年9月 平成28年9月
		大型ディスプレイ		小学校普通教室各1台	平成27年9月
		単焦点プロジェクター		中学校1台	
		これまでICT活用に関して取り組んできた内容	<p>安城市教育センター (平成6年開所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校間ネットワーク拠点機能設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援ソフト、情報共有サーバー管理</li> <li>・授業活用支援、機器不具合対応の相談窓口</li> </ul> </li> <li>②研修用タブレットPC (41台) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と同じシステム設計</li> </ul> </li> <li>③各研修やメディア教材作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報担当者や指定研究、自主研究班の活用</li> </ul> </li> <li>④各学校にICT支援員派遣事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業補助や機器対応を一体化した支援</li> </ul> </li> </ul> <p>図書情報館 (平成29年度開館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各小中学校と市図書館の蔵書管理一元化</li> <li>②市図書館のICT化、デジタル紙芝居貸出等</li> </ul>		





### 3.14 三重県松阪市

#### 3.14.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	三重県松阪市
2. 実践テーマ	⑨主体的・協働的な学びのあり方
3. 教科等	各教科・領域
4. 学年	中学校 1 年～3 年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方



図 1 松阪市 教育の情報化ポスター

平成 27 年度においては、モデルカリキュラムを中間報告としてまとめていくにあたり、各学年の実践を俯瞰して見えてきた学習活動を、段階的な協働的な学びの姿としてまとめた。平成 28 年度、改めてモデルカリキュラムとして、学びの段階について考えていくにあたっては、平成 27 年度の取組を参考にして、3 校の実践を次期学習指導要領で掲げられている「資質・能力」の観点でとらえ直し、整理してみることにした。

12 月に出された次期学習指導要領等の答申では、「資質・能力の三つの柱」として、「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」が整理された。

松阪市においては、ICT の活用についてその意義の整理を進めるにあたり、教育の情報化が目指すものとして、「社会を生き抜く力」を掲げ、そのために、子供たちの資質・能力を授業で育てることを目指して、本年度、ポスターの形でまとめている（図 1）。また、学校独自の研究課題として飯高中学校が従来から取り組んでおり、「主体性」「探求性」「創造性」「関係性」「協働性」「俯瞰性」の 6 つの資質・能力としてまとめている。

今回のカリキュラム作成にあたっては、飯高中学校の取組をもとに、3 校の実践から組み立てた。飯高中学校の 6 つの資質・能力は、本来トータルでとらえて取り組む位置付けであるが、本モデルカリキュラムにおいては、松阪市における本事業の推進会議で検討し、「関係性」「協働性」「俯瞰性」の 3 つの資質・能力に焦点を当てることとした。平成 27 年度での整理を参考にして、平成 28 年度の実践をこの 3 つの資質・能力でとらえ直し、カリキュラムとしてまとめた（図 2、表）。

なお、表における、文部科学省の三つの柱と資質・能力との関連は、金城学院大学国際情報学部 長谷川元洋教授、飯高中学校 平野修教諭の作成した資料を参考にした。



図2 6つの資質・能力（飯高中学校）と、本カリキュラムにおける焦点化

	関係性	協働性	俯瞰性
定義	相手意識と目的意識を明確にして人と関わる力	多様な他者と関わり、目的に向かって活動を統制する力	複数の課題を客観的に捉え、解決策を俯瞰的に判断する力
内容	①正しく伝わる表現をする。 ②根拠や理由を示す。 ③よく聞き、相手の立場に立つ。 ④相手の主張を冷静に分析して対応する。	⑤グループに貢献できる役割を獲得する。 ⑥グループに貢献できる提案や行動をする。 ⑦意見を調整する。	⑧問題を複合的に捉えて複数の解決策を考える。 ⑨目的・目標を考えて総合的に判断する。
三つの柱	①②「思考・判断・表現」 ③④「学びに向かう力・人間性」	⑤⑥⑦「学びに向かう力・人間性」	⑧「思考・判断・表現」 ⑨「学びに向かう力・人間性」

(表 3つの資質・能力の定義とその内容 及び三つの柱との関連)

※3つの資質・能力と定義は飯高中学校による。

これらの3つの資質・能力は、単純に1年生→2年生→3年生といった発達段階に当てはまるものではなく、関係性、協働性、俯瞰性の力を行き来しつつ、それぞれの学年に応じて、揺れ動きながら発達していくと考えられる(図3)。本カリキュラムでは、3中学校の実践をもとにして、資質・能力と、それに対応する学習場面や、資質・能力を育てるICTの活用場面などを示していきたい。

学習の内容や学び方と、そこでの ICT 活用の仕方、それぞれが関連付きながら発展し、深まっていくような場面や活用を見い出し、カリキュラムとしてまとめてみることで、実践の位置付けとともに、今後の、「松阪の子供たちの資質・能力を授業で育てる」取組につなげていくものとしていく。

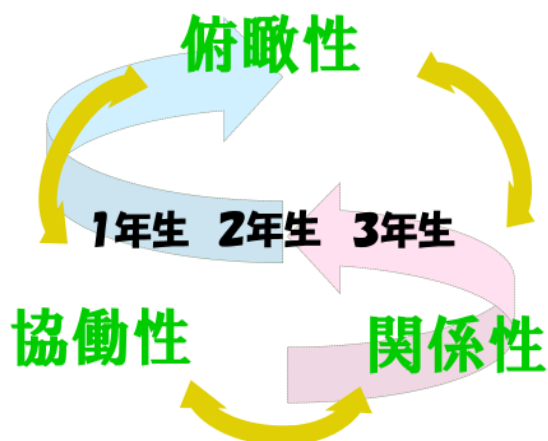


図3 関係性・協働性・俯瞰性の発達

## 6. 参考

本事業に取り組む背景	ICT 環境の整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		タブレット PC	1,123	一人1台	平成23年～平成28年
		電子黒板 プロジェクター ディスプレイ	35 15 5	それぞれを組み合わせながら、普通教室1台	平成23年～平成28年 (プロジェクターは以前も含む)
		その他周辺機器	*	充電保管庫 画面共有装置 など	平成23年～平成28年
これまで ICT 活用に関して取り組んできた内容	平成23年から三雲中学校を実証校としてフューチャースクール推進事業、学びのイノベーション事業に取り組んだ。その後、さらに2中学校で一人1台タブレット PC の環境を整え、教育の情報化を、授業づくりを中心として取り組んできた。				

### 3.14.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

資質・能力の観点を設定し、「つきたい資質・能力と、そのための ICT 活用」欄にて「ねらい/活用場面」「方法/利用する ICT 環境」を示している。

指導時期	教科	単元(題材)	めあて・単元目標 【和技】…知識・技能 【思判表】…思考・判断・表現 【主】…主体的に取り組む態度	学習活動の概要
学習活動の概要(三重県 松阪市)				
つきたい資質・能力と、そのためのICT活用 (A:ねらい/活用場面・B:方法/利用するICT環境)				
<b>資質・能力の観点</b>  <b>【関係性】</b> 相手意識と目的意識を明確にして人と関わる力 ①正しく伝わる表現をする。 ②根拠や理由を示す。 ③よく聞き、相手の立場に立つ。 ④相手の主張を冷静に分析して対応する。  <b>【協働性】</b> 多様な他者と関わり、目的に向かって活動を統制する力 ⑤グループに貢献できる役割を獲得する。 ⑥グループに貢献できる提案や行動をする。 ⑦意見を調整する。  <b>【俯瞰性】</b> 複数の課題を客観的に捉え、解決策を包括的に判断する力 ⑧問題を複合的に捉えて複数の解決策を考える。 ⑨目的・目標を考えて総合的に判断する。			<b>【関係性】</b> ①正しく伝わる表現をする。 A自分の考えをまとめる場面で B資料の配布、タブレットPCへの記入/個人タブレットPC <b>【関係性】</b> ①正しく伝わる表現をする。 ③よく聞き、相手の立場に立つ。 ④相手の主張を冷静に分析して対応する。 <b>【協働性】</b> ⑤グループに貢献できる提案や行動をする。 ⑦意見を調整する。 Aグループで考えあう場面で B書き込んだ資料の共有、タブレットPCへの書き込み/個人タブレットPC <b>【協働性】</b> ⑤グループに貢献できる役割を獲得する。 ⑥グループに貢献できる提案や行動をする。 ⑦意見を調整する。 <b>【俯瞰性】</b> ⑧問題を複合的に捉えて複数の解決策を考える。 ⑨目的・目標を考えて総合的に判断する。 A全体共有で繰り返す場面で B書き込んだ資料の共有、タブレットPCへの書き込み/個人タブレットPC、電子黒板 <b>【俯瞰性】</b> ⑧問題を複合的に捉えて複数の解決策を考える。 ⑨目的・目標を考えて総合的に判断する。 A振り返りの場面で BタブレットPCへの書き込み/個人タブレットPC	

図 3-16 三重県松阪市 小学3年 モデルカリキュラム より抜粋

### 3.15 滋賀県草津市

#### 3.15.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1.自治体名	滋賀県草津市
2.実践テーマ	課題解決に向けた主体的・協働的な学び 『「草津型アクティブ・ラーニング系統表」「草津型アクティブ・ラーニング 小学校・中学校において身に付けさせたい情報活用能力系統表」をもとにした「草津型アクティブ・ラーニングカリキュラム」の充実と展開』
3.教科等	全教科・全領域
4.学年	小学校4年～6年、中学校1年～3年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

「草津型アクティブ・ラーニングカリキュラム」(小学校・中学校)

##### 【ICT 活用の配列の考え方】

##### ①発達段階や指導の順序性を踏まえた「系統表」の作成

- ・「草津型アクティブ・ラーニング 学び方の系統表」(別紙資料)作成
- ・「草津型アクティブ・ラーニング 小学校・中学校において身に付けさせたい情報活用能力系統表」(別紙資料)作成

##### ②アナログ(体験的な学習を含む従来からの学び)とデジタル(ICTを活用した学び)両方の良い部分を活かすハイブリッドな授業(「草津型アクティブ・ラーニング」)によるカリキュラムの作成

- ・板書やノート指導、ディスカッションやグループワーク等の能動的・体験的活動を重視したアナログの良い部分を活かすとともに、ICT 機器を効果的に活用した学習スタイルや児童生徒によるプレゼンテーション等のデジタルの良い部分も活かすハイブリッドな授業によるカリキュラムの作成。
- ・学習形態(一斉、個別、協働)ごとのICT活用のパターンを、カリキュラに明記。

##### ③学習への興味関心を高めるための「遠隔授業」の実施

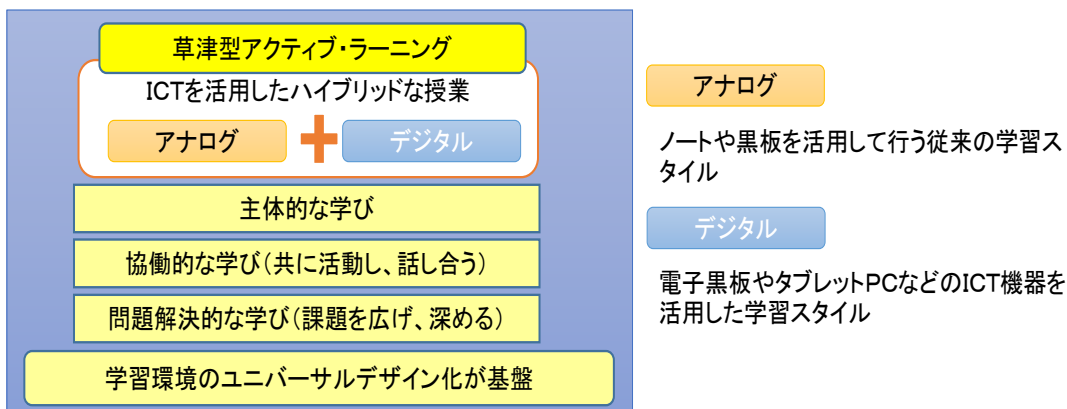
- ・遠隔授業システムを使って、学校外の人たちとの学びから単元の学習をスタートさせる等、学習への興味関心を高めるための活用事例をカリキュラムとして明記。

※実際に授業で活用できるようにするため、授業後に再構成した「学習指導案」を添付。

##### 【本カリキュラムの地域への水平展開】

- ①作成した「草津型アクティブ・ラーニングカリキュラム」を市内全小中学校で共有し、市内全体の教育の質の向上に活用
- ②研究指定実証校による「公開授業」の実施

## 草津型アクティブ・ラーニングとは・・・

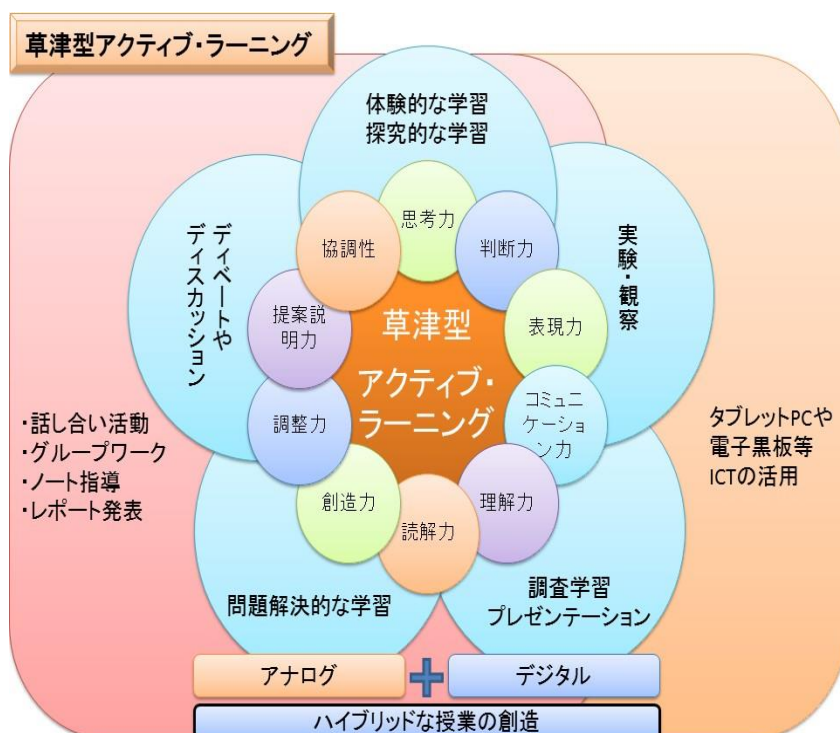


「主体的で協働的、問題解決的な学び」を行うため、学習過程でICT機器を有効に活用していく方式を「草津型アクティブ・ラーニング」と位置付けました。

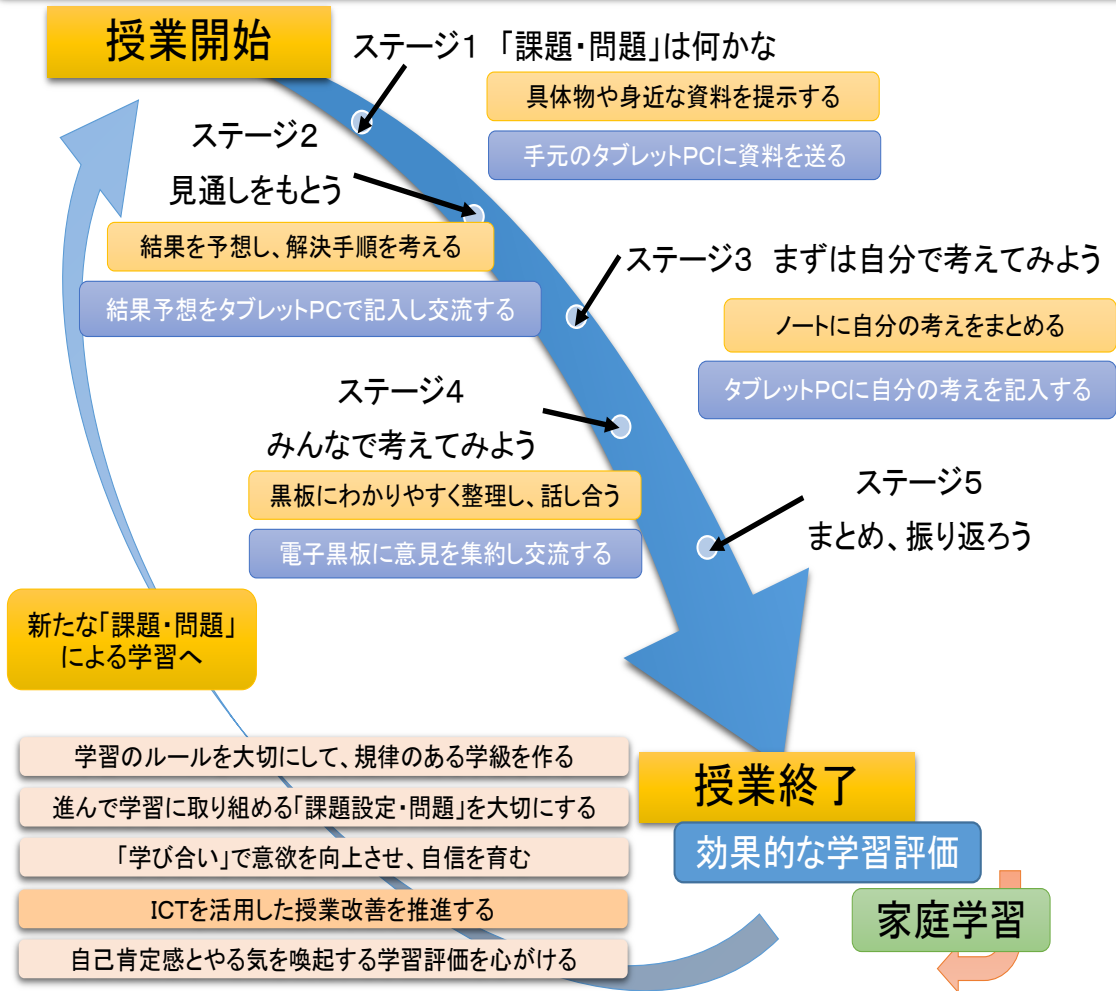
※草津型アクティブ・ラーニングを行うためには、特別な支援を必要とする児童生徒も安心して学習に参加できる学習環境が必要です。こうした学習環境を整えるため、その基盤となる授業のユニバーサルデザイン化を大切にしています。

## 草津型アクティブ・ラーニングがめざすもの

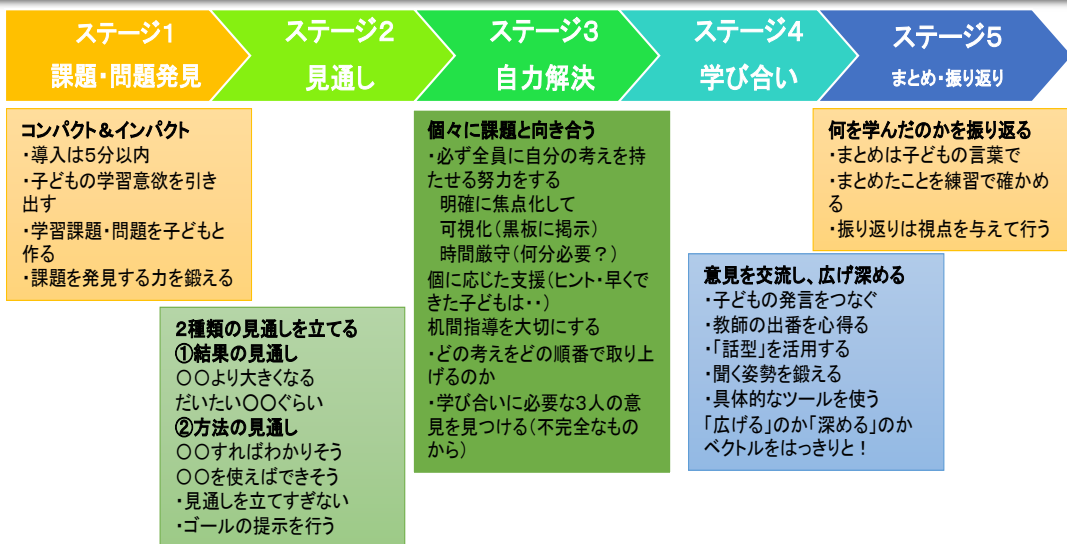
従来の学習に、ICT機器を活用した「デジタル」の学習を組み合わせたハイブリッドな授業を創造することで、子どもたちの学力をバランス良く向上させることを目指しています。

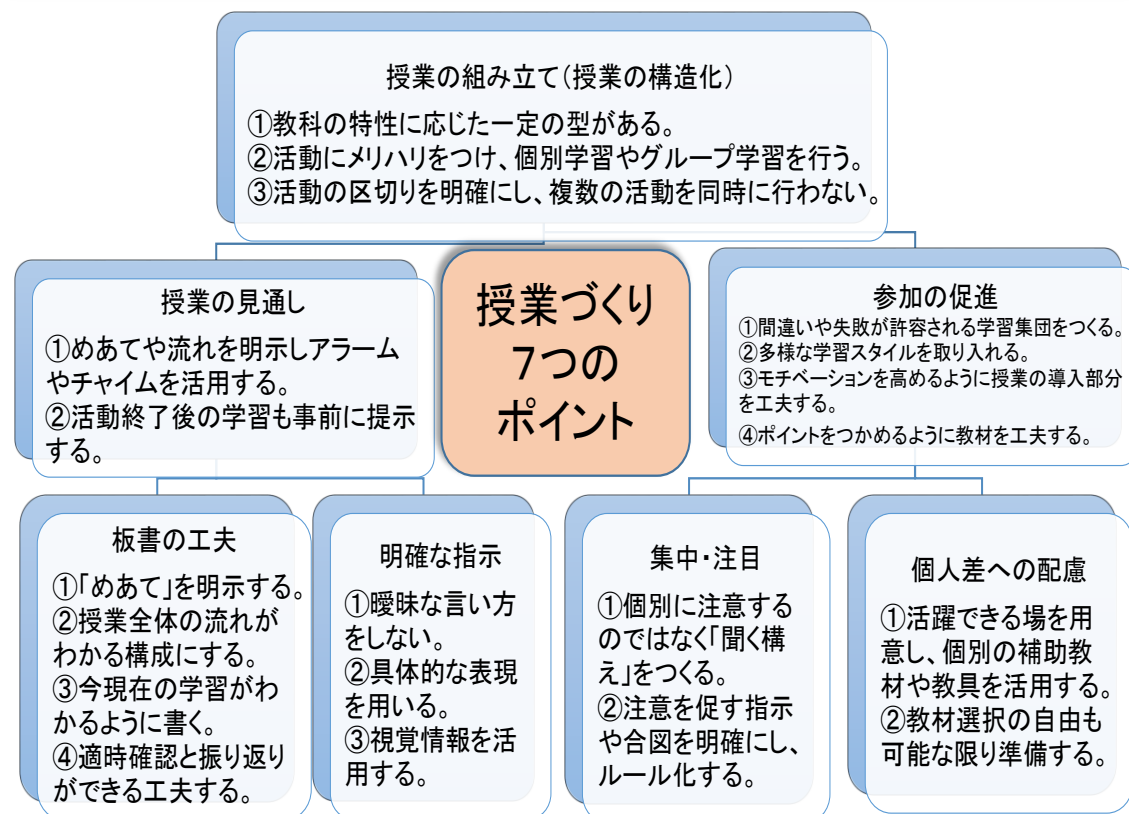


# 草津型アクティブ・ラーニングの基本的学習スタイル

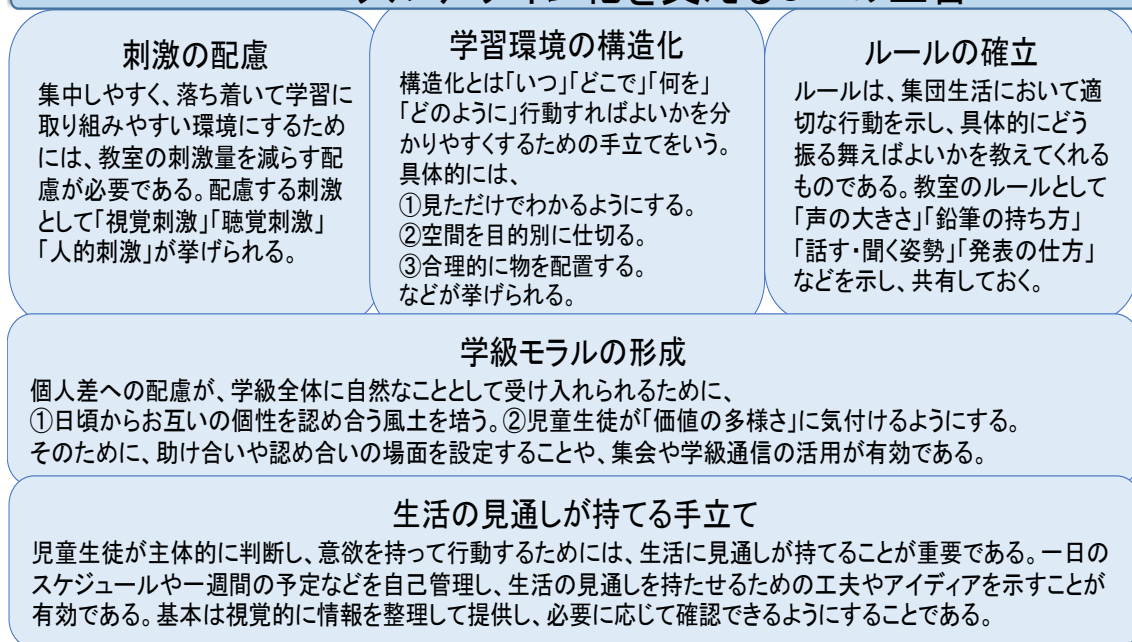


## 「問題解決的な学習」における各ステージと押さえどころ





## ユニバーサルデザイン化を支える5つの土台



教師の指導力・授業力の向上



6. 参考

事業に 取り組 む背景	ICT 環境の 整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		校務用コンピュータ (ノート PC)	707	教職員 1 人 1 台	平成 22 年 3 月～ 更新後： 平成 27 年 1 月～ 平成 28 年 3 月～
		教育用コンピュータ 【小学校】 (タブレット PC)	3、115	3 学級に 35 台 ※1 セット (35 台) を 3 学級で共用 (特別支援学級は 10 台/校)	平成 26 年 8 月～ (一部モデル校は： 平成 25 年 8 月～)
		教育用コンピュータ 【小学校】 (ハイブリッド PC)	503	コンピュータ教室 に 36 台 ※一部 35 台	平成 28 年 8 月～ (一部更新後 平成 26 年 8 月～ 平成 28 年 3 月～)
		教育用コンピュータ 【中学校】 (タブレット PC)	1、040	3 学級に 35 台 ※1 セット (35 台) を 3 学級で共用 (特別支援学級は 10 台/校)	平成 27 年 8 月～ (特別支援学級 は：平成 25 年 8 月～ 平成 26 年 8 月～)
		教育用コンピュータ 【中学校】 (ハイブリッド PC)	210	コンピュータ教室 に 35 台	平成 27 年 8 月～
		電子黒板 (シート型・液晶型)	280	普通教室に各 1 台	平成 22 年 3 月～
		電子黒板 (液晶型)	192	各校に 6 台以上	平成 28 年 8 月～
		書画カメラ (実物投影機)	420	普通教室に各 1 台	平成 22 年 3 月～
		校内 LAN・ 高速インターネット	—	全教室 (整備率 100%)	平成 22 年 3 月～
		無線 LAN (アクセスポイント 等)	208	タブレット PC35 台 に対して 1 台 (特別支援学級は 10 台に対し 1 台)	平成 28 年 8 月～ 平成 25 年 8 月～ 平成 26 年 8 月～
	これまで ICT 活用 に関して取 組んできた 内容	<p><u>平成 21 年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省委託「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」 実証校 草津市立渋川小学校</li> </ul>			

### 平成 22 年度～

- ・市立全小中学校教員対象「ICT を活用した授業力向上のためのスキルアップアドバイザー事業」開始
- ・ICT を活用した家庭学習との連携開始

### 平成 26 年度

- ・文部科学省「ICT を活用した教育の推進に資する実証事業」  
(テーマ 1)「教育効果の検証方法の開発」  
実証校 草津市立渋川小学校
- (テーマ 2)「最適な指導方法の開発」  
実証校 草津市立志津小学校
- (テーマ 3)「指導力向上方法の開発」  
教育研修機関 草津市立教育研究所
- ・市立全小中学校教員対象「タブレット活用推進リーダー研修会」事業開始

### 平成 27 年度～

- ・市立全小中学校「校務支援システム」の導入
- ・市立全小中学校教員対象「草津市教材共有ポータルサイト」運用開始
- ・文部科学省委託「ICT を活用した教育推進自治体応援事業」  
ICT を活用した学びの推進プロジェクト ICT 活用実践コース  
(平成 27、28 年度)  
研究指定実証校 草津市立志津小学校・草津市立草津小学校  
草津市立山田小学校・  
草津市立新堂中学校・草津市立松原中学校
- ・総務省「クラウド等の最先端情報通信技術を活用した学習・教育システムに関する実証事業」(平成 27、28 年度)  
検証協力校 草津市立草津小学校・草津市立志津小学校  
草津市立老上中学校
- ・第 64 回近畿放送教育研究大会 第 65 回近畿学校視聴覚教育研究大会  
滋賀大会 開催  
研究校 草津市立笠縫東幼稚園・草津市立渋川小学校  
草津市立高穂中学校

### 平成 28 年度

- ・文部科学省「情報通信技術を活用した教育振興事業「情報教育推進校 (IE-School)」調査研究 (平成 28、29 年度)  
推進校 草津市立志津南小学校・草津市立玉川小学校

3.15.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

「草津型アクティブ・ラーニング学び方の系統表」にて定義した内容を基に「草津型アクティブ・ラーニングカリキュラム」が作成されている。

	課題・問題の発見		課題・問題の定義 解決の方向性の決定		解決方法の探索 計画の立案		結果の予測 計画の実行		振り返り 新たな課題発見	
	ICT	学び方	ICT	学び方	ICT	学び方	ICT	学び方	ICT	学び方
高学年		疑問や目的に応じて、複数の資料や事例を見比べたり、分類したりする。		課題について、複数の組織や資料を提示しながら、ノートに予想を立てる。		課題の解決や、考えを深めるためにグループや個人でのディスカッションを行う。ディスカッションでは、授業支援システムを用いて、全体の意見を共有したりグループ化したりする。		調べたことを図やグラフ・写真、撮影した静止画・動画、プレゼンソフトを用いて説明する。		学習の過程・方法について省察し、成果と課題を明らかにする。
				必要に応じて、タブレット端末でインターネットを参照して、予想を立てたり、解決方法を見つけていく。		課題解決方法に応じて情報収集の仕方を選択し、タブレット端末の各種機能を活用する。				
		資料や事例と既習事項や既習体験を関連づけながら、自分の考えを根拠を示しながら表す。		思考ツールを用いて、課題について考えを整理したり、グループの意見を集約したりして、解決方法を見つけていく。活動計画を立てていく。		調べたことを解決するために、自分で実験方法や考え、実行する。				
	必要に応じて提示された資料と関連する資料をインターネットを用いて、整理を見つけていく。				学習課題に応じたグループごとに、ディスカッションやタブレットを用いた協働学習を行う。					
								解決方法の探索 計画の立案		
								学び方		
								課題の解決や、考えを深めるためにディベートを行う。ディベートでは、授業支援システムを用いて、全体の意見を共有したりグループ化したりする。		

「学びの系統表」で定義した内容をカリキュラムへ反映

ICT活用		
ねらい	活用場面・方法	利用するICT環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童同士の教え合いによる思考の深化</li> </ul>	<p>【協働学習・一斉学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人で考えた解決方法をグループで交流し、友だちの考え方や意見と、自分の考え方の相違点やちがいに気づく。</li> <li>授業支援ソフトを用いて、児童用タブレットPCから電子黒板に考え方を送信し、全体で共有する。その中から、特徴的な解答や説明が明解なものなどを発表し、理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童による黒板黒板活用</li> <li>児童1人1台タブレットPC活用</li> </ul>

学年	指導期間 学期 月	教科 単元（題材）	単元計画 【本時の目標】	学習活動の概要	ICT活用		
					ねらい	活用場面・方法	利用するICT環境
5	2 学期	算数科 「平均」 (全4時間)	<p>【本時①/4時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平均の求め方を考え、その意味を理解する。</li> <li>○資料書問題(6個のオマケ)からしるべきデータの平均を求め、答えの見積りを求める。</li> <li>○資料の中から必要なデータを選び、平均を求め、平均を用いて、歩幅を求め、歩幅問題に取り組み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「からす」という言葉の意味を理解する。</li> <li>○教科書問題(6個のオマケ)からしるべきデータの平均を求め、答えの見積りを求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■体験の想起による理解の深化</li> </ul>	<p>【一斉学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板に「からす」の動画を映し、こぼれを平らにするイメージと、等しい量にするイメージを共通理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教師による電子黒板活用</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べた結果をもとに、自力で課題解決に取り組む。</li> <li>○自分の考えや解決方法の説明をタブレットに記入し、グループで交流する。</li> <li>○全体で考え方を共有し、「平均」の意味と、求めるための式を確認する。</li> <li>○「平均」を求める式を用いて、練習問題に取り組み理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■児童による説明・発表の支援</li> <li>■児童同士の教え合いによる思考の深化</li> <li>■児童による黒板黒板活用</li> </ul>	<p>【協働学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業支援ソフトにて児童用タブレットPCに問題文・図を転写し、思考したり、整理したりする補助をする。また、考えをタブレットPCに書き込み、思考を共有化できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■児童1人1台タブレットPC活用</li> </ul>	
					<ul style="list-style-type: none"> <li>■児童同士の教え合いによる思考の深化</li> </ul>	<p>【協働学習・一斉学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人で考えた解決方法をグループで交流し、友だちの考え方や意見と、自分の考え方の相違点やちがいに気づく。</li> <li>授業支援ソフトを用いて、児童用タブレットPCから電子黒板に考え方を送信し、全体で共有する。その中から、特徴的な解答や説明が明解なものなどを発表し、理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■児童による黒板黒板活用</li> <li>■児童1人1台タブレットPC活用</li> </ul>
					<ul style="list-style-type: none"> <li>■反復練習による知識の定着</li> </ul>	<p>【協働学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルワークブックを利用し、平均の練習問題にそれぞれ取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■児童1人1台タブレットPC活用</li> </ul>

図3-17 滋賀県草津市「草津型アクティブ・ラーニング学び方の系統表」及び「草津型アクティブ・ラーニングカリキュラム」より抜粋

### 3.16 岡山県新見市

#### 3.16.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	岡山県新見市
2. 実践テーマ	<p>⑨その他 各教科において具体的に取組むだけでなく、教科横断的にも取組む。 また、校外活動や総合的な学習などの特別活動や生徒会活動等においての利活用についても取組む</p> <p>&lt;詳細&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の向上、自己学習能力の向上、動機付けのための ICT の利用</li> <li>・家庭や地域との連携や学習以外でのタブレット PC・各種アプリケーションの利用</li> <li>・知的能力及び生産性を向上させるための放課後や家庭でのタブレット PC の利活用</li> <li>・個人的ツールとしての利活用だけでなく協働でのツール、表現能力向上のツールとしてのアプリケーションの利活用</li> <li>・上記の利活用において必要になる教員の研修会・情報共有（各種システム及びデジタル教材等、それらを組み入れた授業案及び指導案の作成等）等の実施体制の整備</li> </ul>
3. 教科等	5 教科を中心に、実技教科や校外活動、総合的な学習などの特別活動、生徒会活動等においての利活用についても実践していく
4. 学年	中学校 1 年～3 年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

教育に特化したアプリを利用しているわけではなく、ビジネスや仕事の効率化のためのアプリを利用して授業を行っているため、教科別または単元別での使い方や利用するアプリに差異はない。どのような場面でどのように使ったかということが大切であり、その時の児童生徒の取組方や効果が重要である。

そのため、今まで作成してきた活用事例集（アプリカルテ）の作成を中心に、どのようなアプリを使って、どのようなワークシートを使ったかなどを、アプリごとにまとめた後、教科別に利用場面と効果等について整理していく。

詳細は、以下の項目のとおりである。

#### <カリキュラム項目>

学年	教科	単元	アプリ等	ねらい	授業概要	ICT 活用		効果	活用事例
						利用機器	形態		

【学 年】 1～3 年生、全校、特別支援学級…

【教 科】 9 教科、道徳、特別活動、生徒会活動…

【単 元】 授業での単元名、集會名…

【ア プ リ 等】 利用アプリ及び ICT 機器の機能…

【ね ら い】 下記より該当するものを記載（複数可）

■興味関心の創出

■繰り返しの知識定着

- 典型例の提示による知識定着
- 生徒による説明・発表の支援
- 体験の想起・代行による理解の深化
- 生徒同士の教え合いによる思考の深化
- 創作活動による思考・表現の向上
- その他 ( )

【授業概要】 本時の授業内容及び生徒の動き…

【ICT活用】

利用機器：タブレット PC、電子黒板、PC、実物投影機…

形態：個別、ペア、グループ、一斉、協働…

【効果】 生徒・先生にとっての有効な点…

【活用事例】 該当するアプリカルテへのリンク

アプリカルテについては、本事業とは関係なく新見市内で参考にしてもらうために従来から作成している。また、その作成については、教員に負担をかけないために、担当の ICT 支援員が、教員にヒアリングしつつ作成している。

作成時に気をつけていることは、どれだけ興味を持って見てもらうことができ、そして次に読んでもらえるかを第一に考えている。そのため、授業の様子（形態がわかる）や利用したワークシートや生徒が作成したワークシートの画像を掲載し視覚的に見せるようにしている。

詳細な情報が必要と感じてもらえるようになるまでの段階が難しいことであり、そこから先を説明するため、または研修してもらうために、学校教育課担当者や支援員が存在している。それにより、詳細な情報が必要と感じた場合は、学校教育課担当者や支援員から説明を受け、その教員の考えややりたいことを直に聞きながら、一緒にモデルカリキュラムにアレンジを加え、授業案等を作成している。

ただ作成して学校に配付するだけでなく、熟知した学校教育課担当者や支援員の巡回支援により活用の幅は広がっており、意欲や意識の向上にもつながっている。そして、その中で、教員のスキルも向上してきており、先導的教員として、支援員不在時の安易なトラブル対応や ICT を活用した授業案等の相談役となってきている。こうした教員が育っていき、各小中学校及び各中学校区で配備できればと思っている。

## 6. 参考

本事業に取り組む背景	ICT環境の整備状況	学校名	機器名・数量及び共有状況 *タブレット PC	導入時期
		新見第一中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場及び体育館等を含めた校内無線 LAN 整備</li> <li>・タブレット PC：生徒 1 人 1 台及び教員（生徒用：434 台、教員・予備用：70 台）</li> <li>・電子黒板：普通教室及び特別教室 24 台</li> </ul>	平成 26 年度
		新見南中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場及び体育館等を含めた校内無線 LAN 整備</li> <li>・タブレット PC：生徒 1 人 1 台及び教員（生徒用：160 台、教員・予備用：36 台）</li> <li>・電子黒板：普通教室及び特別教室 13 台</li> </ul>	平成 26 年度

	大佐中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場及び体育館等を含めた校内無線 LAN 整備</li> <li>・タブレット PC : 生徒 1 人 1 台及び教員 (生徒用 : 73 台、教員・予備用 : 21 台)</li> <li>・電子黒板 : 普通教室及び特別教室 10 台</li> </ul>	平成 26 年度
	哲多中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場及び体育館等を含めた校内無線 LAN 整備</li> <li>・タブレット PC : 生徒 1 人 1 台及び教員 (生徒用 : 87 台、教員・予備用 : 13 台)</li> <li>・電子黒板 : 普通教室及び特別教室 11 台</li> </ul>	平成 26 年度
	哲西中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場及び体育館等を含めた校内無線 LAN 整備</li> <li>・タブレット PC : 生徒 1 人 1 台及び教員 (生徒用 : 56 台、教員・予備用 : 19 台)</li> <li>・電子黒板 : 普通教室及び特別教室 11 台</li> </ul>	平成 23 年度 フューチャー スクール 推進事業に て整備
これまで ICT 活用に関して取り組んできた内容	<p>平成 22 年度～ 高尾小学校にて全児童にタブレット PC 配付及び普通教室に電子黒板整備</p> <p>平成 23 年度～ 哲西中学校にて全生徒にタブレット PC 配付及び普通教室及び体育館等特別教室に電子黒板整備</p> <p>平成 26 年度～ 哲西中学校を除く市内全中学校 5 校において、校内無線 LAN ネットワーク及び電子黒板など ICT 環境を整備すると共に、1 人 1 台のタブレット PC を配付し ICT 活用教育を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな場面で、効果的な利活用がされている。その中で、無料アプリを利用かつ連携させた協働学習が行われており、この手法は非常に効果的であり、高く評価されている。</li> <li>・各学校及び各教科部会の教員の授業見学や研修を行い、同一教科の他校教員と情報を共有し、教科教育の高度化を図っている。</li> <li>・先進校である哲西中では定期的なタブレット PC の持ち帰りを行っており、情報モラル教育についても実施している。他の中学校においても、学校の状況に応じて、哲西中学校での取り組みをモデルにルールを作成の上、持ち帰りを実施している学校もあり、この中で、家庭学習を定着させ、学校と家庭での学習のあり方について検討している。</li> <li>・全中学校において、朝から放課後まで自由にタブレット PC を使用させている。その中で、各学校の状況に合わせてルールの作成や指導内容について検討し、中学校教育における情報リテラシー教育の位置付けを行っている。</li> <li>・機会があるごとに、情報モラルについて授業や指導等を行い、確実に定着させようとしている。そして、情報源とする Web サイト等から必要かつ正しい情報を得ること、様々なアプリケーションを使用することによるリテラシーの向上及びこれらを通じて従来の教員からの「あたえられ」、「やらされる」学習ではなく、自ら「調べ」、「考える」学習によって、知識の定着を図っている。</li> </ul>		

### 3.16.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

これまで蓄積してきた授業における ICT 活用事例集を基にモデルカリキュラムが作成されており、活用事例が添付されている（図 3-18）とともに、効果が記載されている（図 3-19）。

活用事例	115
【 授 業 名 】	自分のことを話そう
【 使用 アプリ 】	
【 教科 / 単元 (学年) 】	英語 / My project 1 (第 1 学年)
【 ね ら い 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A L T の自己紹介動画で流れる内容を本時の学習題材・テーマにして、「読み・書き・聞く・話す」を総活用し、英語の習得を計る</li> <li>・ 生徒自ら考えさせ、自分の言葉で発言させたりなどの主体的な授業参加（アクティブラーニング）によって英語習得の向上を計る</li> </ul>
【 授 業 概 要 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代表的で身近な洋楽で英語を発声させる</li> <li>・ 配付資料に記入、発言させながら A L T（動画）の質問に答えさせる</li> <li>・ 四人一班になり、英語で不明な点を相互相談させ、英語の発言をチェックさせる</li> <li>・ よかった点・改善点を生徒相互で情報共有させるために付箋でまとめさせる</li> </ul>
【 効 果 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I W B で動画を流すことで、生徒全員が集中して動画を見ていた</li> <li>・ 生徒全員が終始、積極的に授業参加した</li> <li>・ 洋楽を歌う際には大きな声で歌っていた</li> <li>・ A L T（動画）の質問のときには、生徒が積極的に発言していた</li> <li>・ グループ内学習の際には生徒同士が積極的に意見交換していた</li> <li>・ アクティブラーニングを達成できた</li> </ul>

図 3-18 岡山県新見市活用事例（中学 1 年英語）より抜粋

学年	教科	単元	ねらい	授業概要	ICT活用		効果	活用事例
					活用機器	形態		
1	英語	My project 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 聴取の想起、代行による理解の深化</li> <li>■ 生徒同士の考え合いによる思考の深化</li> <li>■ 創作活動による思考・表現の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 身近な洋楽で英語の発声練習</li> <li>■ 配付資料への記入と質問への回答</li> <li>■ 英語で不明な点を相談、発音のチェック</li> <li>■ よかった点改善点を付箋で整理</li> </ul>	IWB	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒全員が終始、積極的に授業参加した</li> <li>・ A L T（動画）の質問のときには、生徒が積極的に発言していた</li> <li>・ グループ内学習の際には生徒同士が積極的に意見交換していた</li> <li>・ アクティブラーニングができる</li> </ul>	1年英語115
1	英語	speaking4 買い物①（Tシャツを買う）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 語り渡しによる知識定着</li> <li>■ 生徒同士の考え合いによる思考の深化</li> <li>■ 創作活動による思考・表現の向上</li> <li>■ 生徒による説明、発表の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 英語のあいさつ、洋楽を歌う</li> <li>■ 英単語の読み取り、クイズ形式による英文の記憶定着</li> <li>■ 英語の読み取り、クイズ形式による英文の記憶定着</li> <li>■ 英語の読み取り、クイズ形式による英文の記憶定着</li> <li>■ 英語の読み取り、クイズ形式による英文の記憶定着</li> </ul>	TPC	個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画と今回の撮影動画の比較・確認によって、声の大きさ・リズムなど発音の誤差を客観的に自己修正できる</li> </ul>	1年英語95
1	英語	The Wonderful Ocean	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 聴取の想起、代行による理解の深化</li> <li>■ 生徒同士の考え合いによる思考の深化</li> <li>■ 生徒による説明、発表の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 英語の聞き取り、クイズゲーム</li> <li>■ 人物、キャラクターのキーワードを記入</li> <li>■ キーワードからヒント文を作成</li> <li>■ ヒント文を読み取り、クイズ文章を作成</li> <li>■ 発表</li> </ul>	TPC-IWB	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マインドマップやヒント文、クイズ文章の作成の作り方・作業の流れを1人に渡し、ペンツールソフトを使いながら説明できて、生徒への説明がやりやすかった</li> <li>・ キャクターをイメージにきくと、Yahoo!あしんねつとで検索でき、ヒント文を作る手がかりになった</li> <li>・ 書けない単語、教科書を調べても書けない単語があっても、Yahoo!あしんねつを使って単語を調べることができる</li> </ul>	1年英語130
1	数学	方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 語り渡しによる知識定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基本問題の撮影</li> <li>■ 問題の発問</li> <li>■ 答え合わせ</li> </ul>	TPC	個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寺量では実物投影機で生徒のノートを写して答え合わせしていたが、@schoolに提出させることにより、ノート回収の手間が省けて時間短縮できた</li> <li>・ 多くの生徒の解答を共有することができる</li> <li>・ 授業内容に個人の理解度を把握することができた</li> </ul>	1年数学148

ICT活用		効果	活用事例
利用機器	形態		
IWB	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒全員が終始、積極的に授業参加した</li> <li>・ A L T（動画）の質問のときには、生徒が積極的に発言していた</li> <li>・ グループ内学習の際には生徒同士が積極的に意見交換していた</li> <li>・ アクティブラーニングができる</li> </ul>	1年英語115
IWB	個別		
-	グループ		
-	個別 グループ		

図 3-19 岡山県新見市 ICT 教育カリキュラムより抜粋

### 3.17 島根県

#### 3.17.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	島根県
2. 実践テーマ	⑨その他 学校図書館活用教育における ICT の活用
3. 教科等	国語科、社会科、総合的な学習の時間
4. 学年	小学校 4 年～6 年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

##### (1) 調べ学習の各過程における活用について

学校図書館を活用した主体的・協働的な調べ学習において、ICT 機器を、どの単元の、どの過程※で、どのように利活用することが効果的かを検証する。

その際、図書資料と ICT 機器の相乗効果的な活用を実践的に研究する。

調べ学習の過程※	代表的な ICT 活用	代表的な学校図書館活用
①課題の設定	<p>図書資料と ICT 機器の特徴特徴を生かした探究モデルを授業者が具体的に提示することで、児童に興味・関心や見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心の創出</li> <li>・説明・発表の支援</li> </ul>	
②情報の収集	<p>図書館資料を中心としながら、ICT の長所も生かして、様々な方法で効果的に情報を収集する。ICT の特徴を生かし児童相互に収集した情報を閲覧できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT による検索 (インターネットリンク集、百科事典電子版)</li> <li>・ 収集した情報の閲覧・想起</li> </ul>	
③整理・分析	<p>情報カードを操作するなどして、収集した情報について比較・分類したり優先順位を考えたりする。その過程を児童相互に吟味・共有するために ICT 機器を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整理・分析の過程の吟味・共有</li> </ul>	
④まとめ・発表	<p>ICT を活用することで、収集した情報を効果的に活用したり、相手や目的に応じて発表を修正・変更したりしながら、よりよい発表・よりよい考えに練り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明・発表の支援</li> <li>・ 作業を簡略化することによる意欲の喚起</li> </ul>	

※   は、図書資料と ICT 機器の相乗効果的な活用の具体的な事例



(2) 発達段階や指導の順序性を踏まえた ICT 活用について

下学年において学校図書館の図書資料により情報を活用する能力の基礎を培い、それを上学年において ICT 機器の利活用へと発展させる。また、図書資料と ICT 機器を往還的に利用し、それぞれの特徴を体験的に理解させ、必要に応じて活用できるようにする。上記のような取組を通して児童自身が課題解決にふさわしい手段を選ぶことができるようにする。(参考資料：平成 28 年度 情報活用の指導 身に付けた力の系統表)

(3) クロスカリキュラムについて

学習者の主体的な学習を促進するため、各教科等の学習過程を組み合わせ、一体とした単元(クロスカリキュラム)を作成した。クロスカリキュラムの総合的な目標は、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で設定し教科等の目標を超えた資質・能力の育成を目指した。児童の課題解決の意欲を高め、ICT や学校図書館資料の活用がより主体的になるように心がけた。

6. 参考

本事業に 取り組む 背景	ICT 環境の 整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		実物投影機	11	各校通常学級に 各 1 台	平成 22 年～平成 26 年
		電子黒板	8	各校 4 台 (内、プロジェクター タイプ 2 台)	平成 22 年～平成 26 年
		タブレット PC	47	各校 2 クラス分 (児童 1 人 1 台)	平成 26 年 9 月、 平成 27 年 9 月
		学習支援 ソフト	47	各校 2 クラス分 (児童 1 人 1 台)	平成 27 年 3 月、9 月
	これまで ICT 活用に 関して取り 組んできた 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 22 年度 町内の小中学校に電子黒板、実物投影機等を設置</li> <li>○平成 23 年度 町が島根県メディア教育研究大会の開催地となる</li> <li>○平成 24 年度 全小中学校にデジタル教科書を整備</li> <li>○平成 25 年度 全小中学校の特別支援学級にタブレット PC を導入 タブレット PC 活用先進校視察等の教職員研修を実施 中国地方放送教育研究協議会夏期特別研修会で実践発表(来島小)</li> <li>○平成 26 年度 町内の 1 中学校をタブレット PC 活用実証校に指定 全小中学校にタブレット PC を配備 ICT 支援員 1 名を配置し、中学校 1 校を支援</li> <li>○平成 27 年度 本事業実証校に学習支援ソフトを導入 ICT 支援員 1 名を配置し、中学校 1 校と本事業実証校 2 校を支援</li> <li>○平成 28 年度 町内すべての小中学校に学習支援ソフト、タブレット PC を整備 全小中学校に指導者用デジタル教科書を整備(各学年 3 教科ずつ) ICT 支援員を 2 名体制として、全小中学校に巡回支援</li> </ul>			

3.17.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

ICT 活用及び学校図書館活用の「ねらい」「活用場面・方法」「利用する ICT 機器・学校図書館資料」をそれぞれ■（ICT 活用）、および◆（学校図書館活用）にて示している。

学習活動の概要		ICT活用■及び学校図書館活用◆		
		ねらい	活用場面・方法	利用するICT機器・学校図書館資料
1. 放送局かどのようにして情報を伝えたかを発表する。	■◆興味・関心の創出 ◆並行読書	【一言指導】 ・東日本大震災が発生したとき、放送局がどのようにして情報を伝えたかを視覚的にとらえられるようにする。 ・関連する資料を提示し、学習への意欲付けを図る。	■（教員） デジタル教科書 ◆メディアに関する図書資料 ◆新聞資料	
2. 情報を伝える人の工夫や願いなど、もっと調べてみたいことなどから考え学習問題をつくる。				

学年計画			ねらい		活用場面・方法		利用するICT機器・学校図書館資料	
学期	月	単元	ねらい・単元目標	ねらい	活用場面・方法	利用するICT機器・学校図書館資料	利用するICT機器・学校図書館資料	
5	3	1	【社会的養育】 1. 放送局がどのようにして情報を伝えたかを発表する。 2. 情報を伝える人の工夫や願いなど、もっと調べてみたいことなどから考え学習問題をつくる。 【社会的養育】 1. 放送局がどのようにして情報を伝えたかを発表する。 2. 情報を伝える人の工夫や願いなど、もっと調べてみたいことなどから考え学習問題をつくる。 【社会的養育】 1. 放送局がどのようにして情報を伝えたかを発表する。 2. 情報を伝える人の工夫や願いなど、もっと調べてみたいことなどから考え学習問題をつくる。	【一言指導】 ・東日本大震災が発生したとき、放送局がどのようにして情報を伝えたかを視覚的にとらえられるようにする。 ・関連する資料を提示し、学習への意欲付けを図る。	■（教員） デジタル教科書 ◆メディアに関する図書資料 ◆新聞資料	■（教員） デジタル教科書 ◆メディアに関する図書資料 ◆新聞資料		

図 3-20 島根県モデルカリキュラム社会科・国語 5 年 より抜粋

### 3.18 島根県美郷町

#### 3.18.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	島根県美郷町
2. 実践テーマ	⑥言語活動
3. 教科等	全教科
4. 学年	小学校4年～6年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

本町の児童生徒においては「思考力・判断力・表現力等」の育成に課題があり、これらの力を育成するためには言語活動を充実させた授業改善に取り組む必要があった。

その際、言語活動を充実させるツールとして、タブレット PC 等の ICT 機器は有効であると考え、タブレット PC 等の ICT 機器をどのように活用すれば言語活動が充実し、「思考力・判断力・表現力」の育成を図ることができるのかを検証し、それをもとにモデルカリキュラムを作成した。

モデルカリキュラムの作成に当たっては、以下に示すような考え方を基に作成した。

- ① 言語活動の充実を図った授業改善を行うためには、指導者や児童が言葉のみで、説明したり、話し合ったりするのではなく、思いや考えを文字や図など見える形にし、共有する活動が有効である。(思考の可視化)

例えば、次のような活動場面が考えられる。

- ア) 指導者が学習課題を設定する場面において、電子黒板に画像を示したり、黒板に書いたりして授業のねらいを明確化する。
- イ) 児童が課題に向き合った時に生じる思いや考えを文字や図、グラフ、表、画像などを使って可視化させる。
- ウ) 指導者や児童の思いや考えは可視化された情報と言葉の両方で共有することで明確になり、児童はさらに思考を深める。

- ② ①のような授業を展開するためには、その際の道具(ツール)として ICT 機器や黒板、ノートなどの物理的な環境を整える必要がある。

- ③ 本町ではこれまでの実践から主として ICT 機器を中心としたデジタルツールと黒板や鉛筆・ノートを中心としたアナログツールの特性を明確にし、それぞれの強みを取り入れた授業をデザインすることが授業改善にとって大切であると考えた。

- ④ 言語活動の充実におけるデジタルツールとアナログツールの特性は大きく次のように考えられる。(○は強み、△は弱み)

#### ・デジタルツール

○映像を大きく映し出したり、映像に書き込んだり、拡大したりするなどの操作を通じて、課題を焦点化したり、課題に対しての考えを持ったり、他の人と考えを共有したりすることができる。

○映像は動画として動きや変化を見せることができたり、説明に合わせてスライドなどを示すことで思考の過程を表現したりすることができる。

△表示は一時的であり、基本的には授業展開の中で消える。

・アナログツール

○授業展開の中で大切な内容を残すことができる。授業が終わった際にはその時間の学習内容全体を俯瞰し、内容を確認することができる。

△授業展開の中で、思考を表現したものを、誰でも見やすいように大きく提示することは難しい。

- ⑤ 実際に指導者は学習のねらいにせまるための言語活動を設定し、デジタルツール、アナログツールの特性をふまえて有効なツールを選択するなど、授業をデザインすることが大切である。
- ⑥ その手がかりとして、本町では、単元や1時間の授業の基本的な流れ（美郷スタイル）を作成した。

授業の展開	学習活動	学習形態	ツール
			デジタルツール アナログツール
つかむ	課題設定	一斉学習	電子黒板等
	↓ 学習のねらいの提示	一斉学習	黒板・ノート等
考える 深める	個人思考	個別学習	タブレット PC 等
	↓ 情報の共有	協同学習	黒板・ノート等
	↓ 思考の深化	協同学習 一斉学習	電子黒板等
まとめ 振り返り	思考力・表現力の向上 知識の定着	一斉学習	電子黒板等 黒板・ノート等
	↓ 学習の振り返り	個別学習	黒板・ノート等

- ⑦ ①～⑥の考えに基づいた授業は教科や単元にとらわれることなく、普段の授業実践の中で繰り返し行われるものであるが、本モデルカリキュラムでは代表的なものとして各学年、各教科、各学期に1単元を記載した。

- ⑧ そして、それぞれの単元ごとに「単元のねらい」「設定する言語活動」「活動の概要」「デジタルツール・アナログツールの活用について」を示した。「デジタルツール・アナログツールの活用について」では ICT 等デジタルツールのみではなくアナログツールを示し、デジタルツールとアナログツールの関係を矢印で示した。このことによりデジタルツールの特性を意識しそれぞれの良さを生かした活用につながると考えた。

- ⑨ また、ICT の活用についてはタブレット PC に慣れていない4学年はノートやワークシートに自分の考えを書き込み、それをタブレット PC を使って写真に写し電子黒板に転送するなど、カメラ機能を使う活動を多く取り入れた。児童の実態や書き込む文字の量にもよるが、学年が進むにしたがってタブレット PC へ直接書き込み、電子黒板に転送する活動を多くしている。

6. 参考

本事業に 取り組む 背景	ICT 環境の 整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		タブレット PC	127 台	小学校 4 年生 以上 1 人 1 台 ずつ	平成 27 年 7 月
		電子黒板	8 台	全教室	平成 27 年 7 月
	無線ネットワーク環境	2 校	全教室	平成 27 年 7 月	
	これまで ICT 活用に関 して取り組ん できた内容	平成 27 年度にタブレット PC や電子黒板、無線ネットワーク環境の整備を行い、平成 27 年 9 月以降本格的に活用を始めたところである。昨年度は 2 回、今年度 2 回「美郷町 ICT 活用推進会議」を開催し、より効果的な活用方法について協議を行った。また、ICT 支援員ならびに指導主事が学校訪問を行い、日頃から活用方法についてアドバイスをしている。導入初年度は指導者の話題の中心は ICT 機器をどう使うのかといった点であったが、現在は学習のねらいにせまる使い方はどうあるべきなのかといった点に移行してきている。			



### 3.19 福岡県那珂川町

#### 3.19.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	福岡県筑紫郡那珂川町
2. 実践テーマ	①外国語活動・英語教育 ICT を活用した中学校英語教育の高度化
3. 教科等	英語
4. 学年	中学校 1 年～3 年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

本町のモデルカリキュラムの特徴として、ICT 活用に特化した英語科の年間指導計画を作成し、全ての単元において ICT の活用例を挙げている。

全単元においてタブレット PC 等を使用しなければいけないという配列ではなく、それぞれの単元において、ICT を取り入れるのならば、このような活用ができるという例を挙げた年間指導計画を作成している。

本町は英語の 4 技能をバランス良く向上させることを目標としているため、その指導計画の中には 4 技能のリスニング (L)、リーディング (R)、スピーキング (S)、ライティング (W) のどの部分が重点的に評価できるのかを表している。

さらに、それぞれの単元目標に応じた ICT 活用の具体例を「ICT を活用した指導」の項目に表記している。ここには、それを活用することで、今求められている“どのように学ぶか”“何ができるようになるか”という視点を設け、その指導に対する「評価規準」が整合するようになっている。

実際には、日常的な活用として、授業の始まりに一人一人がタブレット PC においてドリルアプリ等を活用し、語順並び替えや発音練習、常備してある課題に取組み、日々の成果を確認するなど、毎日の反復練習により様々な面で生徒の英語に関する技能の向上にもつながっている。

また、タブレット PC を用いて個人のスピーチをそれぞれで録音し、再生し確認する、ペアとなってスピーチの録画をおこない、それを確認し相互評価しあうなど、これまでにはできなかった自分で自分のスピーチを確認した上で、改善しながら反復練習が可能となる。

スピーキングのテストについては、生徒が録画したものを教師用パソコンに提出し、教師が空き時間等に確認・評価するなど、これまでは一人一人を相手にテストしていたものを別の時間に利用できるなど時間短縮も可能となる。

さらに、タブレット PC を活用し、オンライン英会話という外国人講師との授業を行うこともでき、これについては、普段授業をおこなっている ALT との授業とは違い、5 名～6 名のグループに分かれ、オンライン上の 1 人の講師と会話を行い、そのグループの中でも講師と会話をする生徒、その横でサポートをする生徒、またその講師と生徒の会話の中から情報を得る生徒など、教師が生徒にそれぞれに役割を与えることで、生徒は意欲的に授業に臨んでいる。

生徒は、学んだことをオンライン上の外国人講師に対して実践的に英語を話すというタスクを課せられているため、それぞれが授業の前に目標や課題をもって準備している。40 人に対し 1 人の ALT よりも 5 名～6 名に対し 1 人のオンライン上の外国人講師を活用することでより効率の良いコミュニケーション力の向上にもつながる。学年に応じて、年間でどの部分にこの授業を組み込んでいくのかも効果的な活用を行う上で重要となってくる。

これらのように、ドリルアプリによる日常的な反復練習から、寸劇やストーリーテリングにおいてどのように相手にわかりやすく伝えるか、学習した内容をもとにオンライン英会話システム

により英語でのコミュニケーション力、4技能の総合的な力をつけていくなど、幅広い活用が可能となる。

その他にも、電子黒板を活用し、生徒が考えた文章や回答を教師用タブレットPCで撮影し、それを電子黒板に映し出すことで、全体で共有したり、それを基に生徒が発表したりすることもできる。

また、電子黒板の活用においては、教師が作成した教材を映し出し、デジタル教科書を利用し、教科書に沿った学習もでき、音声確認がしやすくなる。

タブレットPCの活舞台数については、目的に応じて、生徒が一人一台で活用、ペアで活用、グループで活用、教師だけが活用など工夫しながら活用している。

## 6. 参考

本事業に取り組む背景	ICT環境の整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		タブレットPC(生徒用)	120	町内の3中学校に40台ずつ	平成28年2月1日～リリース開始
		タブレットPC(教師用)	3	各中学校に1台ずつ(教師用)	同上
		管理用パソコン	3	同上(管理用パソコン)	同上
	電子黒板	11	町内の各小中学校に1台ずつ	平成21年度	
	これまでICT活用に関して取り組んできた内容	<p>平成21年度に町内の小中学校に電子黒板を1台ずつ配置していたが、効果的な活用ができておらず、教員によっては自分で作成した教材などを用いている者もいるが一部の教員に限られていた。</p> <p>平成27年度のタブレットPCの導入により英語科の教員を中心にタブレットPCの活用に併せて電子黒板、液晶テレビを併用しながら、ICTの活用を進めている。</p>			



### 3.19.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

全単元で単元目標及び ICT 機器の特性に応じた具体的な ICT 活用例が記載されており、その指導に対する「評価規準」が示されている。

ICTを活用した指導				評価規準						
○ハワイの文化について調べる。 ○過去形の練習問題を解く。				・絵日記を読んでその内容を読みとることができる。【理】 ・春休みについての絵日記を書くことができる。【表】						
○道案内ソフトを使い、英語の指示に従って道案内を聞き取る。 ○道案内ソフトを使い、英語で案内の指示を吹き込む。				・交通手段を尋ねたり、説明したりする道案内の会話をする ことができる。【表】 ・交通手段を尋ねたり、説明したりする表現を身に付けている。【知】						

平成28年度 那珂川町 英語科年間指導計画 中学校 第2学年（140時間）

月	配時	単元・題材	学習内容・方法・活動	ICTを活用した指導	L	R	S	W	評価規準	評価方法
4	8	Lesson 1 Aloha!	・過去形（一般動詞）（復習） ・ハワイ滞在の絵日記を読む。 ・一言つけ加えたりして会話を続ける。 ・春休みについて絵日記を書く。	○ハワイの文化について調べる。 ○過去形の練習問題を解く。	○	○		○	・絵日記を読んでその内容を読みとることができる。【理】 ・春休みについての絵日記を書くことができる。【表】	発言観察 ブリント観察
	1	Let's Talk ① 道案内をしよう	・道案内で使う表現 How can I get to ~?	○道案内ソフトを使い、英語の指示に従って道案内を聞き取る。 ○道案内ソフトを使い、英語で案内の指示を吹き込む。				○	・交通手段を尋ねたり、説明したりする道案内の会話をする ことができる。【表】 ・交通手段を尋ねたり、説明したりする表現を身に付けている。【知】	発言観察 メモの分析 テスト
5	13	Lesson 2 Peter Rabbit	・過去形（be 動詞）（肯定 疑問 否定） ・過去進行形 ・接続詞 when ・ピーターラビットの物語を読む。 ・ピーターラビットの物語のあらすじを絵を使いながら発表する。	○過去形の練習問題を解く。 ○タブレットに保存した写真を見ながら、自由にストーリーを作って、ペアで説明をしよう。	○	○		○	・英文を聞いて、その内容を聞き取ることができる。【理】 ・積極的に自分がしたことを書いている。【コ】	メモ分析 様相・記述分析
6	1	Let's Listen① テレビニュース	・話の全体的な内容を聞き取る。	○英語ニュースの概要を聞き取る。	○				・聞き取った内容を表にまとめることができる。【理】	記述分析
	1	Let's Talk ② もし雨が降ったら	・「もし明日雨が降ったら～します」という会話を理解・表現することができる。 If it's clear, let's play soccer.	○並べかえ英文問題を解く。 ○教科書の音読を録音し、再生して自分の課題点を把握する。	○	○	○		・「もし～ならば」と条件や仮定を表す会話活動に取り組んでいる。【コ・表】 ・if の使い方を理解することができる。【理】	発言・記述分析 小テスト
	15	Lesson 3 The Ogasawara Islands	・未来を表す表現 (will, be going to) ・接続詞 that ・「地球を守るためにできること」についてのアンケートに答える。	○天気予報のニュースを聞いて、概要を聞き取る。 ○天気予報の図を見ながら、天気予報についてペアで話をする。	○			○	・パンフレットを読んで、書き手の意向を読みとることができる。【理】 ・級友のインタビューして、級友と自分の日曜日の予定を発表することができる。【表】	学習プリント分析 発言・記述分析

図 3-22 福岡県那珂川町 「英語科年間指導計画 中学校 第2学年」より抜粋

## 3.20 佐賀県小城市

### 3.20.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	佐賀県小城市
2. 実践テーマ	⑨その他 情報リテラシーと情報モラルの育成
3. 教科等	道徳、社会、国語
4. 学年	小学校1年～中学校3年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

- ・実践テーマ「情報リテラシーと情報モラルの育成」を目指し、小学校1年生から中学校3年生までの9年間、道徳を中心に年間指導計画に「独自教材」を位置づけたモデルカリキュラム
- ・情報モラル指導カリキュラムチェックリスト（文部科学省）を基に、児童生徒の発達段階に応じて「身に付けさせたい力」を体系付け、目指す児童生徒の姿や授業イメージを明確にしたモデルカリキュラム
- ・教師と児童生徒の ICT 活用及び情報モラルやアクティブ・ラーニングの視点を持った授業設計を他教科の学習へつなげるモデルカリキュラム
- ・小中学校の同一の ICT 環境において、ICT 機器とソフトウェアを最小限かつ効果的な利活用を盛り込むモデル授業の開発（ICT 利活用場面を学級の実態に応じて内容をアレンジしたり、段階的に発展させたりすることができる）
- ・導入においては、児童生徒の興味関心を高めたり、学習活動を焦点化したりするために ICT を活用する
- ・展開においては、主に体験や仮想体験で ICT を活用し児童生徒相互の考えの共有から思考する
- ・まとめ（終末）においては、ICT を活用することで考えや立場の変容を明らかにし、学習を振り返らせ、学びを深める

6. 参考

本事業に 取り組む 背景	ICT 環境の 整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		電子黒板	224	全小中学校 通常学級、特 別支援学級 及び特別教 室（一部）	平成 24～ 25 年度
		書画カメラ	224	全小中学校 通常学級、特 別支援学級 及び特別教 室（一部）	平成 24～ 25 年度
		タブレット PC 先 生用	170	全小中学校 教員	平成 25 年度
		タブレット PC 学 習者用	550	各校 20-80 台	平成 25 年度
		校内 LAN		全小中学校 全教室無線 LAN	平成 24 年度
		デジタル 教科書	全学年	全小中学校 全教科	平成 27～ 28 年度
	これまで ICT 活用 に 関して取 組んでき た 内容	<p>平成 23 年度に市内小中学校全校の教頭と情報担当主任を委員とする教育情報化推進協議会を設置し、市内全域で標準化した環境整備を目指す「小城市教育情報化計画」を策定する。</p> <p>平成 24 年度から教育情報化事業に着手して、市内全小中学校における教育情報化に向けた ICT 環境整備を進め、平成 25 年度に完了する。</p> <p>平成 25 年度から児童生徒の情報モラルの育成を重点課題として、IT サポートさがと情報モラル教育に関する協定を締結して情報モラル学習を全校で実施する。また、小城市学力向上研究委員会において授業における ICT 利活用の研修を推進する体制を確立する。</p>			

### 3.20.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

各学年において、道徳をベースに「ICT 活用」の内容とともに「情報モラルの視点」や「アクティブ・ラーニングの視点」が示されている。

【様式】 モデルカリキュラム（年間指導計画） 複数教科の場合

学年	教科 単元（題材） 【出版】	単元計画 【本時の目標】	情報モラルの視点	学習活動の概要	ICT活用			アクティブラーニングの視点	指導案 資料等
					ねらい	活用場面・方法	利用するICT環境		
小学 1年	道徳 やくそくやきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする態度を育てる。 【教材】 「おいしいペンチ」 【みんなの道徳・文部科学省】 （全1時間）	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする態度を育てる。	心を癒す領域 【情報社会の倫理】 6-1 約束やきまりを守る。	自分の生活を振り返り、気づき、めあてをもつ。	■興味関心の創出	【一斉学習】 電子黒板にて、写真や資料を提示して、仮体験や仮想像面を想定させて、展開につなげる。	■教師による電子黒板活用	◎課題・問題の解決のために、主体的で協働的な学習の創造  【個の学び・主体的】 ・ねらい（はしら）立て ・身近な題材の活用 ・問いづくり（発問の工夫） ・仮体験による気づき  【共有の学び・協働的】 ・方向づくり（話し合う空間・議論） ・「誰の共有」  【個の学び・主体的】 ・自分の生き方づくり（自己変革・評価） ・気づきからの変容 ・意識解の構築 ・実生活への結びつき	・指導案 ・指導資料 ・ワークシート
				資料文から、問題場面を考える。	■体験の想起による理解の深化	【個別学習】 電子黒板にて、実際の写真を提示し、自分の生活を振り返ることから、これからのよりよい生活への意欲付けを行う。	■教師による電子黒板活用		
				学習を振り返り、あるべき姿を模索する。	■児童による説明・発表の支援	【個別学習】 みんなが日常的にやっていることや、本時の学習で学んだことを整理する。 【個別学習】 電子黒板と電子黒板を活用して児童の発表を支援して、学級内で共有する。	■教師による電子黒板活用		
道徳	電子決済の疑似体験と、主人公へのアドバイス	知識を癒す領域 【情報セキュリティ】	自分の体験を振り返り、目覚めをもつ。	■興味関心の創出	【一斉学習】 電子黒板にて、写真や資料を提示する。	■教師による電子黒板活用 ■児童1人1台タブレット活用	◎課題・問題の解決のために、主体的で協働的な学習の創造		
中学 3年	道徳 自分を見つめ個性を伸ばす 4-(2) 公徳心、社会連帯  自分の責任や義務について考え、行動しよう。 【私たちの道徳・文部科学省】 （全1時間）	義務教育最終学年として、これまでの学習を振り返るとともに、情報社会における自分の責任や義務について再度考えることで、個人の人権を尊重する態度を養う。	心を癒す領域 【情報社会の倫理】 6-1 個人の人権（人格権、肖像権など）を尊重する  【法の理解と遵守】 6-1 違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない	自分の生活を振り返り、めあてをもつ。	■興味関心の創出	【一斉学習】 電子黒板に資料を提示用して、仮想像面を想定させて展開につなげる。	■教師による電子黒板活用	◎課題・問題の解決のために、主体的で協働的な学習の創造  【個の学び・主体的】 ・ねらい（はしら）立て ・身近な題材の活用 ・問いづくり（発問の工夫） ・仮体験による気づき  【共有の学び・協働的】 ・方向づくり（話し合う空間・議論） ・「誰の共有」  【個の学び・主体的】 ・自分の生き方づくり（自己変革・評価） ・気づきからの変容 ・意識解の構築 ・実生活への結びつき	・指導案 ・指導資料 ・ワークシート
				課題解決のために、調べ学習する。	■生徒同士の見え合いによる思考の深化	【協働学習】 課題を提示し、2人グループでタブレットを使い、学習を進めて課題解決を図る。 【協働学習】 「個」の情報と共有し、課題解決を深化を図る。	■生徒2人1台タブレット端末活用		
				学習を振り返り、あるべき姿を模索する。	■生徒による説明・発表の支援	【一斉学習】 課題について調べた結果を、電子黒板で授業支援システムによる転送機能を用いて発表して全体共有する。 自分のこれからの生活や行動についての心の姿を表現して発表する。 ネット上の発表サイトを活用する。	■教師による電子黒板活用		

図 3-23 佐賀県小城市 情報リテラシーと情報モラルの育成についてのモデルカリキュラムより抜粋

### 3.21 熊本県人吉市

#### 3.21.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	熊本県人吉市
2. 実践テーマ	⑧情報活用能力の育成
3. 教科等	理科、社会、道徳、総合的な学習の時間
4. 学年	小学校3年～6年（理科、社会、総合的な学習の時間） 小学校1年～6年（道徳）

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

- (1) 小学校において、理科・社会・道徳・総合的な学習の時間を中心に、児童自らが情報を適切に収集、整理し、発信する情報活用能力の育成を目指し、情報活用能力育成のカリキュラム開発を進める。  
特に、情報活用能力3観点8要素と、21世紀型能力の基礎力である「情報スキル」との関連を考慮したカリキュラム開発をめざす。
- (2) グループ学習等の協働的な学びの中でタブレット PC 等を活用して、情報の収集・整理・加工・発信を主体的に展開できるモデルカリキュラムの作成を系統的に行う。
- (3) ペア学習やグループ学習での ICT 活用に関するモデルカリキュラムを作成する。グループ1台と一人1台環境での比較など、共通学年において1単元で複数のパターンで検証授業を実施し、活用効果や協働的な学びの変化について検証・分析を行う。
- (4) 各教科での知識や技能を活用する力を情報活用能力に関連づけた情報教育の指導方法を教科等で横断的に検討し、人吉市の小学校すべてで共通したカリキュラムを開発し情報活用能力を高める。
- (5) 作成したカリキュラムは、人吉市立教育研究所情報教育部会を通じて全校での実施、運用し、本市全体で共有を図る。

## 6. 参考

本事業に取り 組む背景	ICT 環境の 整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		デジタルテレビ (後付で電子黒板)	10	小学校 7 校・中学校 3 校 各 1 台	平成 21 年度 ～ 平成 22 年度 (学校 ICT 環境整備事業)
実物投影機	10				
プロジェクタ	10				
スキャナ	10				
デジタルテレビ (J-ALERT 表示用)	11	小学校 7 校・中学校 3 校 各 1 台	平成 21 年度 ～ 平成 22 年度 (エビキラスカン情報誌誌事業)		
タブレット PC	320	小学校 7 校・中学校 3 校 各 1 学級分			
タブレット PC 充電保管庫	16	小学校 7 校・中学校 3 校 1 学級分			
屋内アクセスポイント	41	小学校 7 校・中学校 3 校	平成 22 年度 (地域情報誌 ICT 推進プロジェクト)		
タブレット PC (児童用)	902	小学校 7 校 2 人に 1 台			
電子黒板 (教師用タブレット PC、実物投影機含む)	35	小学校 7 校 2 学級に 1 台			
タブレット PC 充電保管庫	47	小学校 7 校 2 学級に 1 台			
指導者用デジタル教科書	7 7	小学校 7 校 国語・算数 (1～6 年) 理科 (3～6 年)			
授業支援ソフト	7	小学校 7 校			
屋内・屋外アクセスポイント	200	小学校 7 校 校内無線 LAN 100% 運動場でも利用可			
校務支援システムソフト	7	小学校 7 校			
電子黒板 (教師用ノート端末、実物投影機含む)	10	中学校 3 校		平成 24 年度 ～ 平成 25 年度	
電子黒板用ノート端末 (利用サービス)	50	小学校 6 校		平成 27 年度	
指導者用デジタル教科書	6 6 6	小学校 6 校 国語・算数 (1～6 年) 社会・理科 (3～6 年) 地図 (4～6 年)			
タブレット PC	60	小学校 3 校 各 20 台			

		指導者用デジタル教科書	3 3 3	中学校3校 国語・歴史・地図・数学・ 理科・音楽・美術・技術・ 英語（1～3年） 地理（1～2年） 公民（3年）	平成28年度
		タブレット PC	60	小学校3校 各20台	
	これまで ICT 活用に関 して取り組ん できた内容	<p>1 学校・地域施設の防災・防犯情報システム活用、学校でのユビキタス環境と e ラーニングによる学習環境を整備した。学校や地域施設の安全安心を保証し、地域住民の自発的活動を促すとともに、児童生徒の学力向上と地域教育力の向上を図った。</p> <p>2 校内 LAN（無線 LAN 接続）、児童用タブレット PC 等を整備し、これらの環境の活用促進を図るため、デジタル教科書・教材等を集約した「人吉市きずなポータル」も構築。デジタル教科書やドリル教材、Web 共有ボードも日常的に活用できる環境を整えた。人吉市立教育研究所情報教育部会を中心に市全体で組織的に推進した。</p> <p>3 学年の発達段階に応じ中心的に活用する機器・機能を設定した「児童情報活用スキル一覧」をまとめ、最終的な児童の姿をイメージし指導に組み込むことができるようにした。</p>			

### 3.21.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

理科・社会・道徳・総合的な学習の時間を中心とした教科横断型のモデルカリキュラムとして、ペア学習やグループ学習での ICT 活用に関して例示されている。

4	2	4~12	総合	UDってなんだろう	身近なUDについて、自分たちでテーマを決め調べ、互だちに分かりやすく伝えることができる。	身の回りのUDについて、インターネットや書籍、見学、体験などで調べ、プレゼンテーションソフトを使ってまとめる。	<b>■グループ1～数台のタブレット端末活用</b> <b>■電子黒板活用</b>	<b>■児童1人に1台のタブレット端末活用</b> <b>■児童4人に1台のタブレット端末活用</b> <b>■グループ1～数台のタブレット端末活用</b> <b>■電子黒板活用</b>
4	1	7	総合	人吉の環境を探る	●環境について調べ、わかったことや考えたことを友達にわかりやすく伝えることができる。	Opadのプレゼンテーションソフトを使って、それぞれの課題について調べたことをまとめ、発表する。	<b>■児童3～4人に1台タブレット端末活用</b> <b>■教員による電子黒板活用</b>	<b>■児童3～4人に1台タブレット端末活用</b> <b>■教員による電子黒板活用</b>
5	2	9	社会	水産業のさかんな地域	数産漁業について調べ、それを伝え合う中で、人々の努力や工夫に気づく。	様々な資料から、数産漁業への理解を深め、ペア学習や全体での話し合いを行う中、人々の努力や工夫について考えさせる。	<b>■児童2人に1台タブレット端末活用</b>	<b>■児童2人に1台タブレット端末活用</b>
5	2	11	理科	流れる水のはたらき	川や地面を流れる水の様子を観察して、流水には「浸食・運搬・堆積」の3つのはたらきがあることをまとめる。	運動場にできた溝から、本単元の学習課題を設定する。	<b>■児童生徒による電子黒板活用</b>	<b>■児童生徒による電子黒板活用</b> <b>■教員による電子黒板活用</b>
						流れる水の実験の様子を撮影し、繰り返し観しながら、実験の様子を説明してまとめる。	<b>■教員による電子黒板活用</b>	<b>■グループ1～数台のタブレット端末活用</b> <b>■グループ1～数台のタブレット端末活用</b>
							<b>■グループ1～数台のタブレット端末活用</b> <b>■グループ1～数台のタブレット端末活用</b>	

図 3-24 熊本県人吉市 情報活用能力の育成についてのモデルカリキュラムより抜粋



## 3.22 熊本県山江村

### 3.22.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

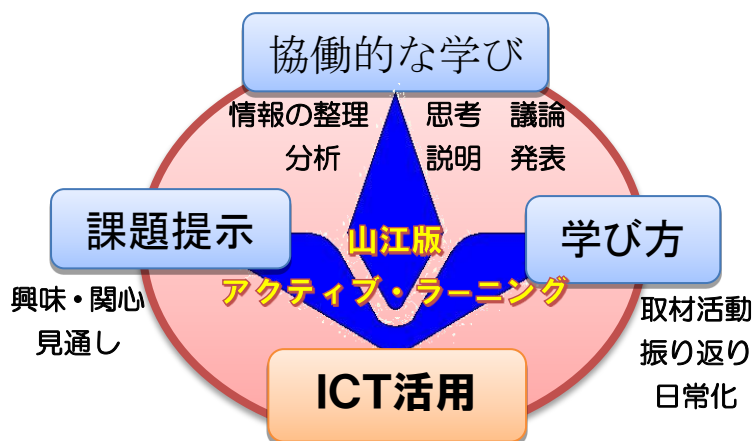
1. 自治体名	熊本県山江村
2. 実践テーマ	⑤その他 ふるさと教育の活性化を図る ICT 活用
3. 教科等	複数教科横断での作成
4. 学年	小学校 1 年生～中学校 3 年生

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

～山江版アクティブ・ラーニングにおける ICT の活用～

本村においては、山江版アクティブ・ラーニングにおける ICT 活用の視点として以下の 3 点を取組の柱とした。

- ①導入時の課題提示における ICT 活用
- ②展開時の協働的な学びの場面における ICT 活用
- ③終末時の学びの振り返り及び授業外活動との連携における ICT 活用



#### (1) 導入時の課題提示における ICT 活用

子供が主体的に課題に向き合うためには、教材との出会わせ方が重要である。

生活場面と関連付けて問題を提示したり、子供の好奇心を刺激するような提示の仕方を工夫したりして、子供の関心意欲を高めることが主体的な学びにつながる。また、地域素材を教材化し身近なものや人をとおして学ぶことで、子供は課題を身近な問題としてとらえることができる。

ここでは、「自作のプレゼンテーションやデジタル教材等を活用して既習事項を振り返る」「既習事項と本時の学習との関連を明確にして解決の見通しを持たせる」「注目してほしい部分をマーキングして課題を焦点化する」「学習の進め方を提示する」等の主に教師の活用により、子供に課題への関心や解決への見通しをもたせた。学年の段階、教科・領域、時期等に関わらず多くの学習で活用が可能であり、「何を」「どう見せるか」にこだわることを特に大切にしたい。

(2) 展開時の協働的な学びの場面における ICT 活用

本村では、子供の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が実現できるよう、特に集団思考の場面（協働的な学びの場面）を重視している。集団思考の場面は単に自分の考えの情報発信（アウトプット）だけにとどまらず、ペアやグループでの話し合いをとおして新しい考えを生み出したり、自分の考えにフィードバックしたりされるような双方向型の学びであることが重要である。そこで、思考の過程の可視化や思考錯誤のツール、情報の整理・分析、疑似体験、発言の根拠を示す等の活動において ICT を活用した。

ここでは、教師が作製したデジタル教材の提示や書画カメラを用いた説明活動等教師が主体となった活動の他に、タブレット PC やホワイトボード・思考ツール等を併せて子供が主体となって活用する活動も多い。また、低学年では「教師が設定した使用方法に沿って活用する」「自分の考えを相手に伝えるための表現ツール」等の限定的な活用が多いが、学年が上がるにつれて「発言の根拠として様々な資料の中から選択して示す」「学んだ結果を取り込んで自分の考えを整理する」等、子供の活用の自由度も広がっていく。

(3) 終末時の学びの振り返り及び授業外活動との連携における ICT 活用

本時の学習の振り返りとして、これまでの学習や身近な生活との関連を意識させる資料を提示したり、学習内容を整理・記録したりする場面で ICT を活用した。特に道徳の時間については、学習内容をあたため実践への意欲を高めるために、身近な話題を教師の説話として終末に示すようにしたため、どの学年でも活用が可能である。また、教科の学習にあっては学習前後の活動として家庭・地域での取材活動にタブレット PC を活用した。これらについては、操作スキルの点から主に上学年での活用となっている。

6. 参考

本事業 に取組 む背景	ICT 環境の 整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		電子黒板	24	全教室配置	平成 23 年度から
		タブレット PC	491	子供 1 人 1 台	平成 24 年度から
		無線 LAN		全教室整備	平成 24 年度から
	指導者用デジタル 教科書		国・算(数)・社・ 理	平成 23 年度から	
これまで ICT 活用に 関して取組 できた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年度 文部科学省国内の ICT 教育活用好事例の収集・普及・促進に関する調査事業研究事業～九州・沖縄ブロック発表校</li> <li>・平成 24 年度 文部科学省国内の ICT 教育活用好事例の収集・普及・促進に関する調査研究事業協力校</li> <li>・平成 25～27 年度 熊本県教育委員会指定 ICT を活用した「未来の学校」創造プロジェクト推進事業研究校</li> <li>・平成 26 年度 文部科学省委託事業「ICT を活用した教育の推進に資する実証事業」</li> <li>・平成 25～26 年度 DIS スクール・イノベーションプロジェクト実証校</li> <li>・平成 23 年度より毎年 ICT 研究発表会を実施</li> <li>・平成 24 年度より毎年村独自の教育論文表彰式を開催</li> </ul>				

### 3.22.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

アクティブ・ラーニングにおける ICT 活用の視点を

- ①導入時の課題提示における ICT 活用（「課題提示の工夫」）
- ②展開時の協働的な学びの場面における ICT 活用（「協働的な学びの充実」）
- ③終末時の学びのふり取り及び授業外活動との連携における ICT 活用（「学び方の確立」）

とし、それぞれの ICT 活用場面がどの視点を考慮しているのかが示されている

【山江村教 育委員会】		山江版 アクティブラーニング			ICT活用					
		視点1 課題提示 の工夫	視点2 協働的な 学びの充実	視点3 学び方の 確立	ねらい	活用場面・方法	利用するICT環境			
1	1	1	1	1	○	○	○	■興味関心の創出	【一斉学習】 ・家庭で校内の様子を提示し、学習への関心を高める。電子黒板に映し出した画像に印を付けながら説明させ、全体で確認する。 【一斉学習】 ・自分が見つけた夏の様子を紹介する時に、書籍カメラを使ってシートを確認しながら説明させる。	■教師による電子黒板活用(視点1) ■子供による電子黒板活用(視点2)
2	2	1	1	1	○	○	○	■興味関心の創出 ■協働的な学びの充実	【一斉学習】 ・電子黒板に夏の様子や春と比較した同一場所の様子の動画を映し出し子供の気づきを促す。 【グループ学習】 子供の気づきをもとに物語が想像や動画を随時記録・編集していき、共有化の場面で活用する。	■教師による電子黒板活用(視点1) ■教師による電子黒板活用(視点2)
3	3	1	1	1	○	○	○	■興味関心の創出 ■協働的な学びの充実	【一斉学習】 ・導入時に提示資料として地域の伝統行事や文化財等の写真を示し、アンケート結果と併せて学習への関心を高める。 【一斉学習】 ・子供自身の体験や山江村の風景等、ふるさとの魅力を伝える映像を、地域を代表する作曲家大塚理菜氏の曲に合わせて奏す。教材は自分たちで製作して活用し、ねらいとする課題について自分をふり返るきっかけとする。	■教師による電子黒板活用(視点1) ■教師による電子黒板活用(視点2)
4	4	1	1	1	○	○	○	■協働的な学びの充実 ■学びのふり取り	【一斉学習】 ・帰郷後、村内にある国登録有形文化財の石倉を例に示す。外観はそのままだが、内観を変えて今も使用され続けている様子を写真映像で提示し、地域の人文文化財保護への思いを話し合う。	■教師による電子黒板活用(視点2)

図 3-25 山江村モデルカリキュラムより抜粋

### 3.23 鹿児島県霧島市

#### 3.23.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	鹿児島県霧島市
2. 実践テーマ	①外国語活動・英語教育
3. 教科等	外国語活動・英語
4. 学年	小学校3年～中学校3年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

- ・ ICT 活用により育成している力と学力の3要素との関連性について

ICT 活用のねらいは、ICT 活用の目的を、学力の3要素を踏まえた単元目標に関連づけて記入するようにした。(例：「繰り返しによる定着」「動機付け」「興味関心の創出」「児童生徒同士の教え合い」「児童生徒による説明」「目的やめあての明確化」「典型例の提示」「創作活動」「体験の想起」「体験の代行」「自己評価」「知識の補完」等)

- ・ ICT 活用方法、環境について

ICT 活用場面は、どのような ICT 活用の仕方をするのかを記入した。(例：「児童生徒グループ1台タブレット PC 利用」「児童生徒による電子黒板(プロジェクター)活用」「児童生徒によるタブレット PC 利用」「教員によるタブレット PC 利用」「教員による電子黒板(プロジェクター利用)」等)

- ・ 1 単位時間における ICT 活用について

外国語活動や英語教育において、導入、展開、終末における ICT 活用のねらいが大きく分類できる。また、グループにタブレット PC が1台という環境の中でその活用方法については教師や児童生徒それぞれに典型的なものがある。これらのことをアクティブ・ラーニングの視点で1単位時間のモデルとして作成し、毎時間の活用を図りやすくした。

#### 6. 参考

本事業に取り組む背景	ICT 環境の整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		タブレット PC	各学校 9 台	教師用 1 台 児童生徒グループ用 8 台	平成 27 年 9 月
		電子黒板 (50 インチ)	各学校 2 台		平成 22 年
	タブレット PC 保管は主にパソコン室や Wi-Fi 環境の整った教室において行われている。使用については、外国語活動、英語の時間割にあわせて行った。				
	これまで ICT 活用に関して取り組んできた内容	<p>平成 26 年度：文部科学省委託「ICT を活用した教育の推進に資する実証事業 (テーマ 2)」委託 (霧島市立向花小学校)</p> <p>平成 26 年度～28 年度：総務省・文部科学省連携事業「先導的教育システム実証事業」委託 (霧島市立向花小学校)</p>			

### 3.23.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

各単元ごとに、ICT 活用で特徴的なものとして「ねらい」「活用場面」「利用する ICT 機器」について設定するとともに、1 単位時間のモデル例を示している。

中学校 第3学年 英語科 年間指導計画（ICT版）

学期	月	単元	単元目標	内 容（学習活動の概要） 【一言学習】 【個別学習】 【協働学習】	ICT活用（特徴的なもの） （ねらい/活用場面/利用するICT環境）
1	4	Unit 0 Countries around the world	○興味のある国について紹介する5文程度のスピーチ原稿を書いて発表できるようにする。	【一言】 興味のある国について、写真や絵などを見せながらShow and Tellの発表をする。	○タブレット上に興味のある国についての写真を取り込み、その写真について英語で紹介する。【興味関心の創出】
		Unit 1 Pop Culture Then and Now	○受身形や"make"を活用して、自分の考えや気持ちを表現させる。	【協働】 受身形や"make"を活用して、自分のことや身の回りのことを友達に伝える表現活動をする。	○タブレット上に提示された写真や絵について、書いたり話したりする。【動機付け】
			○浮世絵や日本の文化、世界の文化についての動画や写真を見たり、教師とインタラクションを図ったりする。	【一言】 浮世絵や日本の文化、世界の文化についての動画や写真を見たり、教師とインタラクションを図ったりする。	○デジタル教科書内の動画を見たり、インターネットからの動画や写真を見たりする。【興味関心の創出】
			○浮世絵を題材にした会話の中で、身のまわりのものについて、だれによって書かれた本か、どこで作られたものかなどをたずねることができるようにする。	【協働】 教科書の対話文を参考にして、友達と対話練習をする。その際、対話を膨らませたり、コミュニケーションストラテジーを活用したりする。	○対話の様子を自分たちで動画撮影し、形成的評価として使い、技能の向上を図る。【自己評価】 特にイントネーションや語の強勢などに留意する。
			○浮世絵が西洋画家に与えた影響や、現代の日本文化についての文章を理解させる。	【協働】 浮世絵や日本文化についての質問に答えたり、音読をすることで、理解を深める。	○本文の内容に関する質問をペアごとにロイノートの中で作成し、その質問について、全員で考える。【知識の補完】
	5	Daily Scene 1 食事の会話	○食事の場面、人にもめやすめたり、それに答えたりすることができるようにする。	【一言】 筋の通った適切な応答になるように会話を並び替え、会話練習をする。	○ロイノートの中で、エリカのセリフ並べ替えさせ、筋の通った適切な応答にする。【知識の補完】
		Presentati on 1 日本文化紹 介	○日本文化について5文以上の英文を書いて発表したり、友達の発表を聞いて質問し合ったりすることができるようにする。	【協働】 日本文化について、5文以上の英文を書き、発表をする。その後、質疑・応答の言語活動を行う。	○ロイノートの中に興味のある日本文化についての写真を取り込み、Show and Tellの発表をする。【創作活動】
		Unit 2 From the Other Side of the Earth	○現在完了形（継続）を活用して、ずっと続いていることについて表現させる。	【協働】 現在完了形（継続）活用して、自分のことを書いたり話したりする。	○タブレット上に自分が続けていることを英語で書く。それぞれの文をスクリーンに映し、学級で共有する。【児童生徒による説明】
			○ブラジルやアマゾンの自然について興味をもたせ、Unitの学習への意欲を喚起する。	【一言】 ブラジルやアマゾンの自然についての動画や写真を見たり、教師とインタラクションを図ったりする。	○デジタル教科書内の動画を見たり、インターネットからの動画や写真を見たりする。【体験の代行】
			○外国からの転校生との会話の中で、今住んでいる場所にどのくらい長く住んでいるかをたずねたり、答えたりできるようにする。	【協働】 教科書の対話文を参考にして、友達と対話練習をする。その際、対話を膨らませたり、コミュニケーションストラテジーを活用したりする。	○対話の様子を自分たちで動画撮影し、形成的評価として使い、技能の向上を図る。【自己評価】 特にイントネーションや語の強勢などに留意する。
		○ブラジルのアマゾン川や、熱帯雨林から受ける自然の恩恵についてのスピーチ原稿について理解させる。	【協働】 アマゾンの環境問題について黙読したり、音読をすることで、理解を深める。	○ロイノートの中で、パラグラフごとに文ずつ読み、その文を並び替えさせ、筋道の合う文章にする。【知識の補完】	

図 3-26 鹿児島県霧島市 モデルカリキュラムより抜粋

中学校外国語科 ICT を活用した 1 単位時間のモデル例

タブレットPC グループに1台

過程	指導の流れ（例）	ICT活用のねらい （電子黒板 プロジェクター タブレット）	アクティブ・ラーニング の視点における活用例	学力の3要素との関連
導入	① 英語を使う雰囲気をつくる。 ② 前時の内容を想起させた上で、復習を行う。 ③ 題材に対する興味関心や活動への必然性を高めた上で、タスクの提示につなげる。	（教師） ・ 教材や教育用コンテンツの活用 ・ 一言提示（拡大、強調、隠す） ・ 授業支援ソフトによる配信  （生徒） ・ タブレットによる復習（教材活用）	<b>対話的な学び</b> ペア等で情報や考えなどを伝え合う言語活動を効果的に行う。 グループでの情報の収集・整理  <b>深い学び</b> 電子黒板等を用いて分かりやすい課題を提示する。 インターネット等による調査	【動機付け】 【興味関心の創出】 【目的やめあての明確化】 【典型例の提示】 【体験の想起】 【繰り返しの定着】
展開	① 教科書の内容理解を行わせる。 ・ 新出表現や新出単語の理解と練習 ・ 教科書の内容に対する理解 ・ 教科書の音読 等 ② 教科書の題材や新出表現等を元にしたコミュニケーション活動を行わせる。	（教師） ・ 教材や教育用コンテンツの活用 ・ 授業支援ソフトによる画面送受信 ・ タブレットによる活動の録画  （生徒） ・ 教材や教育用コンテンツの利用 ・ タブレット撮影・再生・提示 ・ プレゼンテーション作成 ・ ネット検索	<b>主体的な学び</b> コミュニケーション活動の途中で、映像等で形成的評価を行い、よりよい活動への意欲を喚起する。 映像等で活動を振り返らせ、よき目を向けさせることで、次時の活動への意欲を喚起する。	【典型例の提示】 【繰り返しの定着】 【知識の補完】 【体験の代行】 【創作活動】 【生徒による説明】
終末	① 本時の学習内容をまとめる。 ② 学習を振り返らせる。 ③ 次時の学習内容を確認する。	（教師） ・ 一言提示（拡大、強調、隠す） ・ タブレットによる録画の再生  （生徒） ・ 電子黒板やタブレット等による提示		【自己評価】

図 3-27 鹿児島県霧島市 1 単位時間のモデル例

### 3.24 沖縄県名護市

#### 3.24.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	沖縄県名護市
2. 実践テーマ	⑤ICT活用による実践的な英語教育
3. 教科等	英語科
4. 学年	中学校1年～3年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

##### \* 発達段階に応じた ICT 活用

学年が進むにつれて活用の幅を広げていく

「プレゼン作成」「ネット検索」「発表ツール」等すべて1年生から実際にはスタートするが、入門編的な使い方から学年を追うごとに発展的な使い方へと変化させる。

	デジタル教科書	電子黒板	タブレット	ビデオ会議システム
1年	<p>★【理解】 単語（意味・発音）</p> <p>★【理解・表現】 リーディング練習</p> <p>★【知識理解】 文法確認 （リスニング）</p>	<p>★【興味関心意欲】 資料提示（写真・絵）</p>	<p>★【興味関心意欲】 クイズ式のアプリ</p> <p>★【理解】 アプリ練習問題 （単元まとめ）</p>	<p>★【思考判断・表現】 遠隔交流授業 ・「自己紹介」 ・「思い出の行事」</p>
2年		<p>★【思考判断】 比較・交流</p> <p>★【思考判断・表現】 プレゼンテーション</p>	<p>★【知識理解 思考判断】 インターネット調べ学習</p> <p>★【表現】 発表ツール</p> <p>★【思考判断・表現】 遠隔交流（ビデオ会議システム）</p>	<p>★【思考判断・表現】 遠隔交流授業 ・「将来の夢」 ・「町の紹介」</p>
3年	<p>★【理解】 長文聴き取り</p>			<p>★【思考判断・表現】 遠隔交流授業 ・「日本文化紹介」 ・「中学校生活」</p>

**\*学習過程（導入・展開・まとめ）における ICT 活用**

「導入・展開・まとめ」の学習過程において、それぞれの場面でどのような活用ができるかを整理した。導入部分においては、主に興味関心付けと基礎基本定着のための帯活動でドリル的な活用を行う。展開部分では、プレゼンテーションを作成することによって思考・判断・表現力を磨き、また他者の考えや発表内容を比較・交流するためのツールとして電子黒板やタブレットを活用する。ビデオ会議システムでは、交流することによって学習したことを実践的に活用する場面を設定できる。

	デジタル教科書	電子黒板	タブレット	ビデオ会議システム
導入	★【知識理解・表現】 リーディング練習	★【興味関心意欲】 資料・課題提示	★【興味関心意欲】 クイズ式アプリ	
<b>基礎基本定着の帯活動にアプリやフラッシュ教材を活用する</b>				
展開	★【知識・理解】 単語（意味・発音）	★【思考判断・表現】 生徒のプレゼンテーション ★【思考判断】 タブレットPCに書き込んだ個々の意見や回答を映し出し比較・交流することにより考えを深める	★【思考判断】 調べ学習 ★【表現】 発表ツール ★【思考判断・表現】 遠隔交流（ビデオ会議システム）	★【思考判断・表現】 遠隔交流 ・名桜大学留学生と交流授業 ・海外生徒と交流
まとめ	★【理解】 長文聴き取り ★【知識・理解】 文法確認 （リスニング）	★【思考判断】 タブレットPCに書き込んだ個々の意見や回答を映し出し比較・交流することにより考えを深める	★【理解】アプリ （練習問題）	

以上2つの視点を持ちつつカリキュラム全体をながめながら、あくまでも「子どもが主体的に」「協働的に」「深い学び」が得られるような授業になるように年間計画の作成に努めた。

モデルカリキュラムの様式では右側欄に「ICT活用」をまとめた。

6. 参考

本事業に取り 組む背景	ICT環境の 整備状況	名称	数量	共有状況	導入時期
		タブレットPC	6	教師用 検証校2校に各3台	平成27年度 12月
		タブレットPC	44	生徒用（1学級最大人数） ×検証校2校	平成27年度 12月
		電子黒板	8	市内各校1台 24	平成22年度
				久志中学校 1 屋我地中学校 1	平成27年度 12月
		授業用PC	291	市内全普通教室・特別支 援教室・理科室各1	平成27年度 3月
		ビデオ会議システム	2	検証校2校に1台	平成28年度
	実物投影機	291	授業用PCと併せて	平成28年度	
これまでI CT活用に 関して取 り組んで きた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の海洋技術センター（GODAC）の提供するビデオ会議システムを用いた青森県むつ市の学校との遠隔交流授業（平成24年～28年）</li> <li>・ビデオ会議システムを用いた名桜大学留学生との遠隔交流授業</li> <li>・Web会議システムを用いた台湾の小学校との遠隔交流授業</li> <li>・アプリを利用したドリル学習</li> <li>・電子黒板・タブレットPCを利用したプレゼンテーション</li> </ul>				



### 3.24.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

各單元ごとに ICT 活用のねらいを示し、「導入」「展開」「まとめ」の学習過程においてそれぞれの ICT 活用場面と教材が設定されている。

ICT 活用			
ねらい	ICT 活用場面と教材		ICT 機器
	導入		
	展開		
まとめ			
未来形の定着を図る	T: 動画や写真を提示 A: 文法学習	教師用タブレット 生徒用タブレット (1人1台) 電子黒板	

年間指導計画（2年）

※ A アプリ D デジタル教科書 K 電子黒板 T タブレット端末 V ビデオ会議システム

月	単元名 ○題材・内容	時数		各時の目標	◆言語材料, 表現 (○は主な復習事項) ●場面 ★話題, テーマ ▼働き	評価の観点					ICT 活用				
		単元	パート			ア 観 念 の 確 立	イ 表 現	ウ 理 解	エ 知 識 の 定 着	カ 交 渉 の 能 力	ねらい	ICT 活用場面 と教材	ICT 機器		
5	Unit 2 A Trip to the U.K. ○異文化理解: 光太はゴールデンウィークにイギリスを訪れます。	8	1	1	休暇や週末の予定について、たずねたり伝えたりすることができる。	◆be going to ●メール ★ゴールデンウィークの予定 ▼質問する							未来形の定着を図る	T: 動画や写真を提示 A: 文法学習	教師用タブレット 生徒用タブレット (1人1台) 電子黒板
			1	2	入国審査の質問を理解し、適切に答えることができる。	◆SVOO ●入国審査 ▼依頼する, 質問する, 答える ▼礼を言う						興味・関心	TK: 入国審査の動画を見せる (you tube)	教師用タブレット 電子黒板	
			2	3	ロンドンについて紹介する英文を読んで、登場する名所の名前や特徴を理解することができる。	◆SVOC (C=名詞) ●観光地で ★ビッグベン, ロンドンアイ ▼紹介する, 説明する ▼感想を述べる						本文内容の理解を深める	K: 様々な写真を見せて「〜と解ばれている」の文を生徒に言わせる練習 D: 内容理解のキーワード TK: 教科書の内容表示	教師用タブレット 電子黒板	
			2	4	オックスフォードについて紹介する英文を読んで、その場所の情報や話者の感想を理解することができる。	○一般動詞の過去形 ●観光地で ★オックスフォード大学, ハリー・ポッター ▼紹介する, 説明する ▼感想を述べる						地域のものについて呼び名を紹介し, 文法事項や地域への理解を深める	T: ペアで地域のものについて調べ, プレゼンする	生徒用タブレット (ペアに1台) 電子黒板	
			2	5	・搭乗案内や機内放送を聞いて, 必要な情報を聞き取ることができる。 ・夏休みの旅行計画を書き, それについてたずねたり, 伝えたりすることができる。	○SVOO ○be going to ●搭乗案内, 機内放送 ★海外旅行, 旅行計画 ▼案内する ▼質問する, 答える						本文をスムーズに導入する 未来形への理解を深める	K: 飛行機のパーツを写真で見せ, それが何かを考えさせて, 飛行機につなげる T: 夏休みの予定(仮想)を作らせ, 現地情報(仮定した場所)とともに簡単なプレゼンを行う	教師用タブレット 生徒用タブレット (1人1台) 電子黒板	

図 3-28 沖縄県名護市 年間指導計画（2年）より一部抜粋

### 3.25 沖縄県宮古島市

#### 3.25.1 ICT を活用した年間指導計画作成概要

1. 自治体名	沖縄県宮古島市
2. 実践テーマ	⑦課題解決に向けた主体的・協働的な学び
3. 教科等	社会、数学、理科、英語
4. 学年	中学校1年～3年

#### 5. ICT 活用の配列の考え方

##### ○授業展開における ICT 活用の考え

###### 【導入における活用】

- ・学習者の課題に対する興味関心意欲の向上
- ・指導者の課題説明における提示

###### 【展開における活用】

- ・思考の過程が残せるような活用
- ・ペアやグループで比較や検討ができるような活用
- ・学習者による発表を効率的に行える活用

###### 【まとめにおける活用】

- ・学習者の発表を用いて授業を振り返る活用

##### ○学習形態における ICT 活用の考え

###### 【一斉学習】

- ・課題把握における指導者用デジタル教科書の活用

###### 【個別学習】

- ・シミュレーション教材などの活用
- ・資料収集
- ・プレゼンテーション作成

###### 【協働学習】

- ・考えなどを発表する（共有）
- ・比較や検討のできる活用

##### ○指導者および学習者の段階的な活用の考え

###### 【指導者】

- ・電子黒板での提示や書き込みを活用しての指導
- ・学習者の発表の効率化（有効化）における活用
- ・学習者の学びを可視化できる教材の作成

###### 【学習者】

- ・資料収集し情報の取捨選択をする能力
- ・考えや思考過程を論理的にまとめる能力
- ・他人の意見と自分の意見を比較検討（同調・批判など）する能力

上記のことを踏まえ、単元カリキュラムを作成した。

6. 参考

本事業に取り組む背景	ICT環境の整備状況	名称		数量	共有状況	導入時期	
		下地中	タブレット PC	145	1人1台	平成23年11月	
			電子黒板 (50 ｲﾝﾁ)	5	各教室	平成23年11月	
			無線 LAN		校内無線 LAN 化	平成23年11月	
		久松中	タブレット PC	10	職員室保管	平成27年7月	
			無線 LAN	3	可動式	平成27年7月 (2台) 平成28年9月 (1台)	
	タブレット PC (LTE)		35	1クラス分	平成28年9月		
	大型テレビ(50 ｲﾝﾁ)		6	各教室	平成22年2月		
	電子黒板 (50 ｲﾝﾁ)		1	理科室	平成22年2月		
	これまで ICT 活用に関して取り組んできた内容	平成22年度 総務省「ブロードバンド・オープンモデル実証実験」 ブロードバンド・オープンモデルによる小・中学校教員の事務軽減のための校務クラウド活用、その後民間事業者の校務クラウドサービスを利用し現在に至る。					
		平成23、24、25年度 文部科学省「学びのイノベーション事業」／総務省「フューチャースクール推進事業」 下地中学校における一人一台タブレット PC 環境での協働的な学びの実践。現在も本事業で整備したタブレット PC、電子黒板、無線 LAN 等を活用した授業を日常的に実施。					
		平成26年度 文部科学省「ICT を活用した教育の推進に資する実証事業」 WG2 の ICT を活用した指導方法の開発の研究 理科「天気とその変化」ICT 活用実践事例の映像化（遠隔講義、協働学習）。 総務省「先導的教育システム実証事業」のクラウド等の最先端情報通信技術を活用した学習・教育システムに関する実証の検証協力校					
平成27年度 文部科学省「ICT を活用した教育推進自治体応援事業」 ICT 活用実践コース 各整備段階に応じたモデル授業カリキュラムを確立し、市内全校へ広く普及させることに取り組む。 下地中学校と地元高校とで ICT を活用した農業交流を実践し、栽培から商品化まで実施した。							

### 3.25.2 ICT を活用した年間指導計画例（抜粋）

「授業展開における ICT 活用の考え」「学習形態における ICT 活用の考え」「指導者および学習者の段階的な活用の考え」という3視点を踏まえ単元カリキュラムを作成し、年間指導計画に反映させている。

学習活動の概要		ICT活用					
		ねらい	活用場面・方法	利用するICT環境			
●関係代名詞which(目的格)を用いた文の構造を理解する。 ●興味関心の創出 ●典型例の提示による知識定着		●興味関心の創出 ●典型例の提示による知識定着	・大型テレビにて、プレゼンテーションソフトを利用して、目標となる文を提示し、また、それに関連した動画を見せ、学習内容へ意欲を高める。 (展)協(学) ・タブレット端末を用いて、2人1組で関係代名詞を用いて、もの当てゲームを行う。 (協)自(学)	●教員による大型テレビ ●教師によるタブレット端末活用 ●生徒2人1台タブレット端末活用 ●プレゼンテーションソフトの活用 ●学習支援ソフトの活用 ●教師用デジタル教科書			
学年	指導時期 月 授業	単元 (題材)	めあて・単元目標	学習活動の概要	ねらい	活用場面・方法	利用するICT環境
8		8 International Language	●関係代名詞(目的格)や接続詞を用いて表現したり、相手に尋ねたり、適切に反応することが出来る。 ●関係代名詞(目的格)や接続詞を用いた文を正しく理解し、読み取る事が出来る。 ●関係代名詞(目的格)や接続詞の文の構造を理解する。 ●同じ意味のことも、図によって表現が異なる場合があることを理解する。 ●音読の多様性について具体的な場面と共に理解する。	●関係代名詞which(目的格)を用いた文の構造を理解する。 ●Lesson 8の英文内容理解 ・プレゼンテーションソフト(学習支援ソフト) ・本文並べ替え(Out-up sheet) ・読解(ワークシート)	●興味関心の創出 ●典型例の提示による知識定着	・大型テレビにて、プレゼンテーションソフトを利用して、目標となる文を提示し、また、それに関連した動画を見せ、学習内容へ意欲を高める。 (展)協(学) ・タブレット端末を用いて、2人1組で関係代名詞を用いて、もの当てゲームを行う。 (協)自(学)	●教員による大型テレビ ●教師によるタブレット端末活用 ●生徒2人1台タブレット端末活用 ●プレゼンテーションソフトの活用 ●学習支援ソフトの活用
				●関係代名詞(目的格)を用いて、文章と意図をとり、発表したりする。 ●Activity/Quiz/What	●興味関心の創出 ●典型例の提示による知識定着 ●創作活動による思考・表現の向上	・タブレット端末を用いて、2人1組で関係代名詞を用いて、もの当てゲームを行う。 (協)自(学)	●教員による大型テレビ ●教師によるタブレット端末活用 ●生徒2人1台タブレット端末活用 ●プレゼンテーションソフトの活用 ●学習支援ソフトの活用
				●Lesson 8の英文内容理解 ・会話文(会話)(listening)を理解する ●プレインストロング(学習支援ソフト) ●本文並べ替え(Out-up sheet)	●興味関心の創出	・大型テレビにて、プレゼンテーションソフトを利用して、目標となる文を提示し、また、それに関連した動画を見せ、学習内容へ意欲を高める。 (展)協(学) ・タブレット端末を用いて、2人1組でゼンツクに関してプレインストロングを用い、本文の作意理解へつなげる。 (協)自(学)	●教員による大型テレビ ●教師によるタブレット端末活用 ●生徒2人1台タブレット端末活用 ●プレゼンテーションソフトの活用 ●学習支援ソフトの活用
				●関係代名詞(目的格)の活用を促す。 ●What-are-and-what-is-の区別について(ワークシート) ●Lesson 8の英文内容理解 ・プレインストロング Summarise in English (学習支援ソフト) ・本文並べ替え(Out-up sheet)	●興味関心の創出 ●典型例の提示による知識定着	・タブレット端末を用いて、2人1組で関係代名詞を用いて、好きなものを選ぶゲームを行う。 (協)自(学)	●教員による大型テレビ ●教師によるタブレット端末活用 ●生徒2人1台タブレット端末活用 ●プレゼンテーションソフトの活用 ●学習支援ソフトの活用
				●Lesson 8の英文内容理解 ・プレインストロング Summarise in English (学習支援ソフト) ・本文並べ替え(Out-up sheet)	●興味関心の創出 ●典型例の提示による知識定着	・タブレット端末を用いて、2人1組でゼンツクに関してプレインストロングを用い、本文の作意理解へつなげる。また、日本語、イギリス英語、アメリカ英語の違いについてインターネットで調べ学習を行い、英訳をまとめる。 (協)自(学)	●教員による大型テレビ ●教師によるタブレット端末活用 ●生徒2人1台タブレット端末活用 ●プレゼンテーションソフトの活用 ●学習支援ソフトの活用
				●関係代名詞(目的格)を用いたスピーキング活動をする。 ●英語紹介OMを作って発表しよう。 ●Presentation(OM)	●興味関心の創出 ●創作活動による思考・表現の向上	・2人1組で関係代名詞を用いて、商品プロモーターとして、どのように売ればいいのかタブレット端末を活用して、販売戦略を考える。 (展)協(学)	●教員による大型テレビ ●教師によるタブレット端末活用 ●生徒2人1台タブレット端末活用 ●プレゼンテーションソフトの活用 ●学習支援ソフトの活用
11				●まとめ ●Presentation Best(プロモーターとして商品を売りだす)	●興味関心の創出 ●創作活動による思考・表現の向上	・タブレット端末を用いて、2人1組で関係代名詞を用いて、商品プロモーターとして、プレゼンテーションを行う。 (展)協(学)	●教員による大型テレビ ●教師によるタブレット端末活用 ●生徒2人1台タブレット端末活用 ●プレゼンテーションソフトの活用 ●学習支援ソフトの活用

図 3-29 沖縄県宮古島市 モデルカリキュラム（年間指導計画） 3年英語より一部抜粋

文部科学省委託

I C Tを活用した教育推進自治体応援事業 成果報告書

平成 28 年度 I C Tを活用した学びの推進プロジェクト 成果取りまとめ

I C T活用実践コース

平成 29 年 3 月

N T Tラーニングシステムズ株式会社

教育 ICT 推進部

〒106-8566 東京都港区南麻布 1-6-15 アーバンネット麻布ビル

TEL : 03-5419-7219 FAX : 03-3457-2125

e-mail : with-school2020@nttls.co.jp